



「道の駅あらい」リニューアル基本計画(案)



令和8年1月



1. はじめに

<本計画の目的>

近年、道の駅は単なる道路利用者の休憩施設にとどまらず、地域のにぎわいや魅力を生み出す「地方創生の拠点」として、また、災害時には地域住民の安全・安心を支える「防災拠点」としての役割も担うようになっています。

令和6年7月には、国土交通省から「道の駅第3ステージ中間レビューと今後の方向性」が示されました。この中では、「まち」と「道の駅」が一体となって戦略的に連携し、共通のコンセプトのもとで魅力づくりを進めていくことの重要性が示されています。

本市でも、少子高齢化が進む中で、「道の駅」を多世代が集い、交流する拠点として活用し、将来を見据えた持続可能なまちづくりを進めていくことが期待されています。

今回策定する「道の駅基本計画」は、こうした國の方針と本市のまちづくりの方向性を踏まえ、「まち」と「道の駅」が共に成長するための基本的な考え方を整理したものです。

具体的には、次の3つの視点に基づき、施設のリニューアルや新たな取組を進めていきます。

1. まちづくりに上手に活用する(地域課題をまちぐるみで挑戦する)
2. すでにある魅力を、さらに磨く(既存資源の価値向上)
3. 新たな価値を共創する(未来につながる取組を生み出す)

これらの取組を通じて、「道の駅」を中心に地域の魅力と活力を高め、持続可能なまちづくりの実現を目指します。

なお、本計画は、道の駅「あらい」がリニューアルを通じてめざす将来像の実現に向け、関係者間の議論を踏まえ、継続的に改善・発展させていきます。



まちづくりにおける「道の駅」位置づけ



道の駅「あらい」 全景

2. 現況分析

<施設概要>

道の駅「あらい」は、国道18号及び上信越自動車道新井パーキングエリアに併設し、情報提供施設“くびきの情報館”や飲食店等の商業施設群を備え、平成12年度に供用を開始し、令和2年度には、国道18号東側に地域振興施設を備えたエリアを拡張し、翌年度には県内唯一の「防災道の駅」として登録されました。

現在、道の駅「あらい」は、供用開始後24年が経過して施設の老朽化が進んでいるほか、集客数も減少傾向にあります。

1. 基本諸元

- ・整備形式：一体型
- ・登録：1999(H11)/8/27
- ・供用：2000(H12)/8/1、拡張(東工エリア)：2020(R2)/7/23
- ・接する道路の路線名：①上信越自動車道、②国道18号
- ・道の駅区域面積：62,900m²
- ・駐車場 ※道の駅区域のみ
西工エリア：普通車：229台、大型車(バス・トラック)：16台、身障者用：6台
東工エリア：普通車：202台、大型車(バス・トラック)：6台、身障者用：5台
合計：普通車：431台、大型車(バス・トラック)：22台、身障者用：11台
(参考)
交通量：R3センサス 13,225台/日(平日)、16,996台/日(休日)

2. 施設概要

<西工エリア>

- ・トイレ(24時間利用可能)、情報提供施設
- ・くびき野情報館／S造1階／築2000年／延床面積552m²
- ・農業振興施設四季彩館ひだなん／木造1階／築2000年／延床面積240m²
(食堂80m²、直売所40m²、直売所(別棟)65m²、厨房30m²、事務室・食品庫25m²)

<東工エリア>

- ・トイレ(24時間利用可能)、情報提供施設
- ・四季彩館みょうこう／築2020年／延床面積954m²

3. 防災関連の取組み

- ・「防災道の駅」に指定(R3)
- ・「防災拠点自動車駐車場」に指定(R4)
- ・以下の設備を保有
衛星電話、非常用電源 ※貯水槽なし
トイレの防災対応(下水管を貯留槽とできるように大きいものを設置、耐震化)



2. 現況分析

<「道の駅」の現状>

【施設の配置】

- ①種類豊富な店舗が立地しているが、「道の駅」としての統一感や一体性に乏しい



- ②閉鎖されたトラックステーションや空き店舗など、低未利用スペースが存在している



- ③情報提供施設・休憩所は道の駅の南端に位置し、利用者の主要動線から外れている



- ④東西の経路は地下自由通路や、横断歩道はあるものの、徒歩などによる人の往来は少ない



【施設の内容】

- ⑤東側はトイレ、物販（土産、アウトドア用品）、軽食店が立地するが利用者は少ない



- ⑥農産物直売施設は、商品は豊富だが通路は狭く、バリアフリー対応は十分ではない



【その他】

- ⑦冬季は除雪が必要で、駐車場の一部は利用不可となる



能登半島地震発生後、多くの車両が、「道の駅」駐車場に駐車していた



2. 現状分析

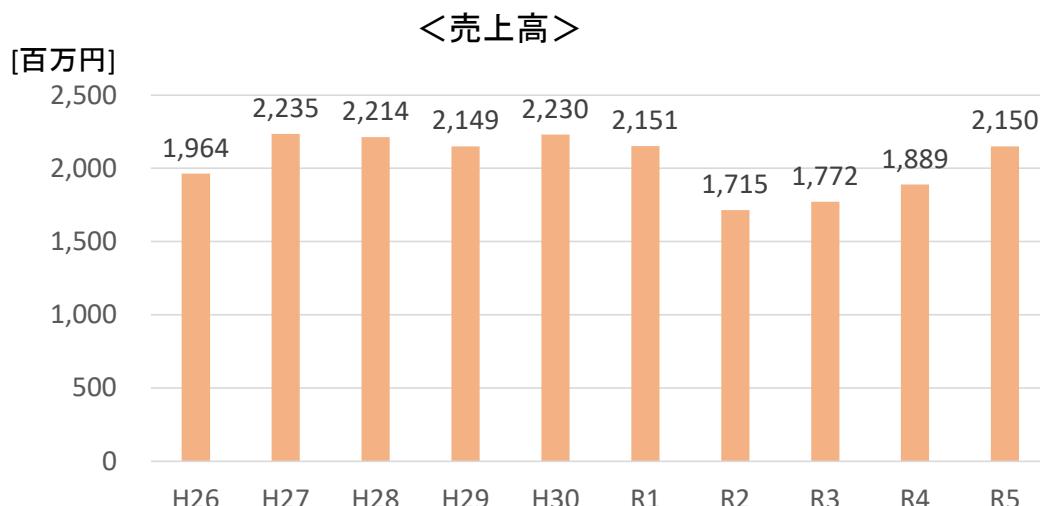
<来訪者数>

- 道の駅「あらい」の利用者数は、コロナ禍以降で増加傾向にあり、直近の令和6年では、年間約286万人が来訪しています。
- 西側に対して、東側の利用者が極めて限定的。また、冬季の利用者は、ピークである夏季の利用者数の1/4程度に留まっています。



<売上高>

- 令和5年の売上高は年間で約20億円。直近では増加傾向にあるが、コロナ禍前の水準を上回ってはいません。
- 上記の来訪者1人当たりの売上高(客単価)を試算すると、約750円/人となります。



客単価
=(売上高)／(利用者数)
=21.5億円／285.6万人
≈ 750 円／人

2. 現況分析

<立地調査>

周辺の類似施設(道の駅／直売所・物産館／スーパー／コンビニ)の立地や施設数を整理しました。

道の駅「あらい」の30分商圈付近には4つの「道の駅」があるが、いずれも高速道路利用が想定される範囲であり、道の駅「あらい」への影響は限定的と考えます。

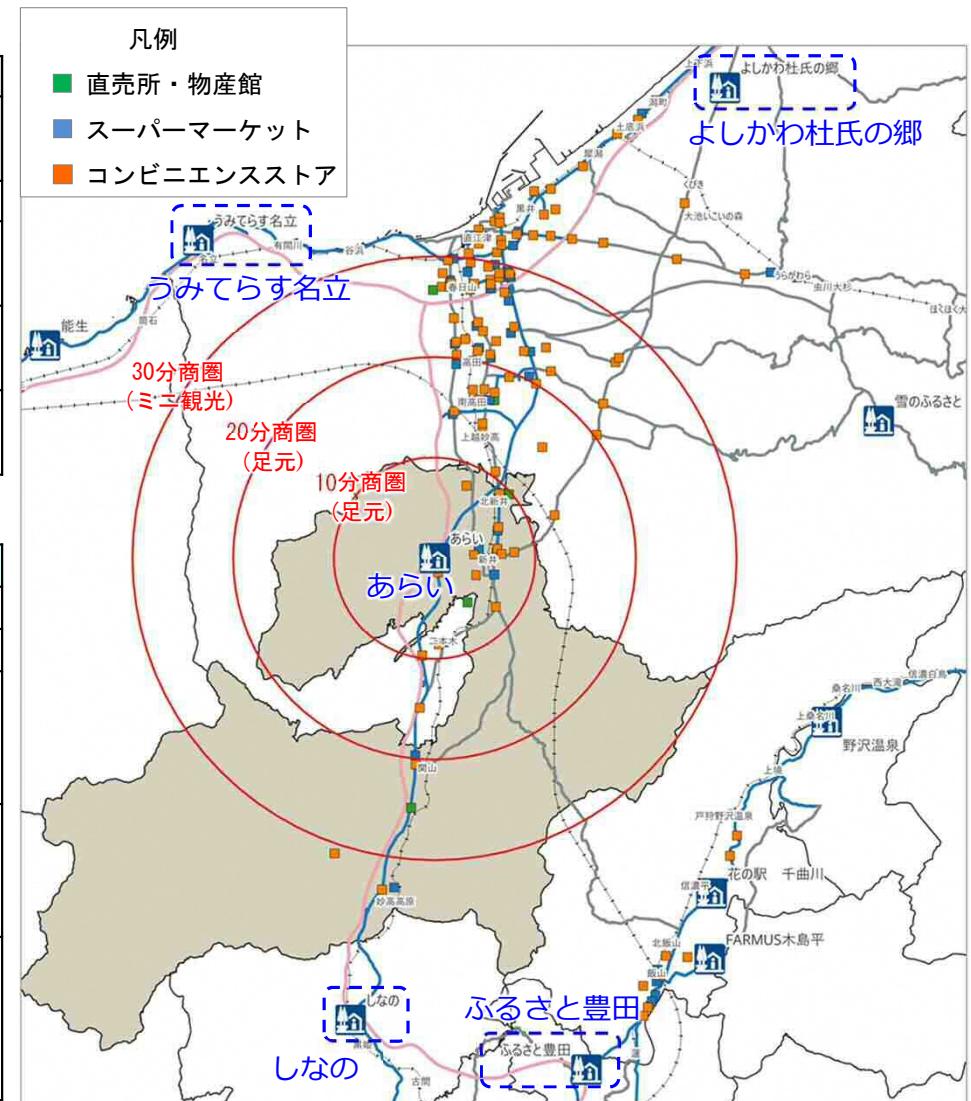
他の施設については、足元商圈において、10分圏内で22施設、20分圏内で計47施設(10分圏内の22施設を含む)が立地しており、「道の駅「あらい」の個性」の打ち出しが重要です。

表 商圏ごとの類似店舗

	足元商圈		ミニ観光商圈	合計
	~10分商圈 (~5km)	10~20分商圈 (5~10km)	20~30分商圈 (10~15km)	
道の駅	—	—	—	—
直売所・物産館	2施設 (うち1つは高速利用)	4施設	3施設	9施設
スーパー	6施設	5施設	17施設	28施設
コンビニ	14施設	16施設	35施設	65施設

表 近隣の道の駅の概要

名称	うみてらす名立	よしかわ杜氏の郷	しなの	ふるさと豊田
所在地	新潟県上越市	新潟県上越市	長野県信濃町	長野県中野市
面積	5.3ha	3.4ha	2.0ha	1.0ha
飲食	・近隣漁港で水揚げされた新鮮魚介や地野菜を用いた丼や定食	・地元産の米や野菜、蕎麦を使ったメニュー	・黒姫高原牧場牛乳、ソフトクリーム ・毎朝職人が手打ちする霧下そば	・地元産の米や野菜、蕎麦を使った郷土料理
物販	・名立漁港直送の地魚や海鮮珍味	・朝採り野菜、山菜、豆類のほか、味噌、漬物などの加工品	・朝採り野菜、信濃町とうもろこし、山菜、新そば、新米、雪中野菜	・野菜、山菜、果物、きのこ ・地元店の手作り菓子、工芸品
その他の特徴	・展望露天風呂を含む7つのお風呂 ・ウォータースライダー付の2つのプール	・尾神岳、米山、妙高連山が一望できる、山並みに囲まれた酒蔵 ・天然日帰り温泉	・繁忙期(5・7・8・9月)を除き、団体予約を受付 ・黒姫山、妙高山の眺望	・蕎麦打ちの実演コーナー

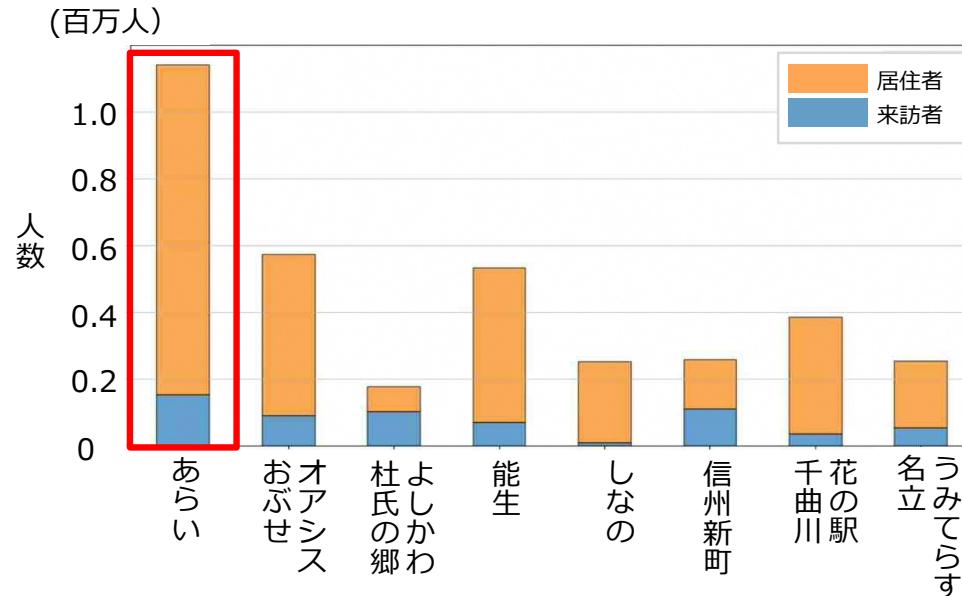


2. 現況分析

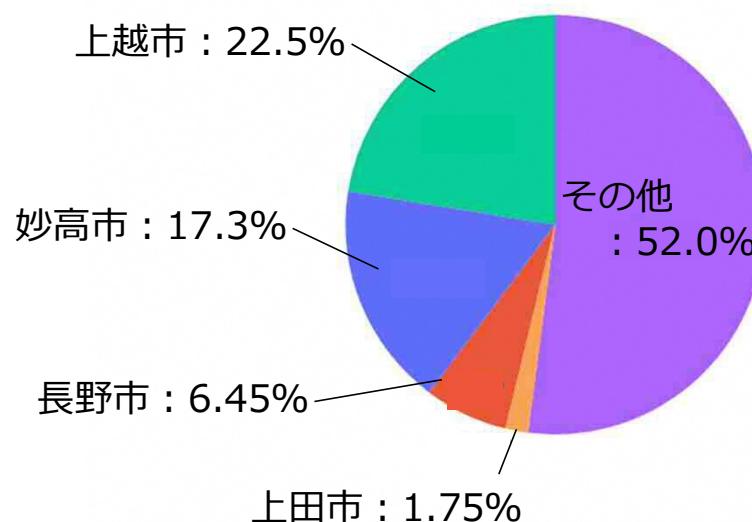
<道の駅あらい利用者 人流データ(GPSビッグデータ)>

【施設ごとの居住者・来訪者数】

○周辺の道の駅と比較して、居住者数、来訪者数ともに最多



○道の駅「あらい」の来訪者の約半数(48%)は、周辺地域からの来訪
顧客居住地割合 2023年8月～2024年8月 期間全体



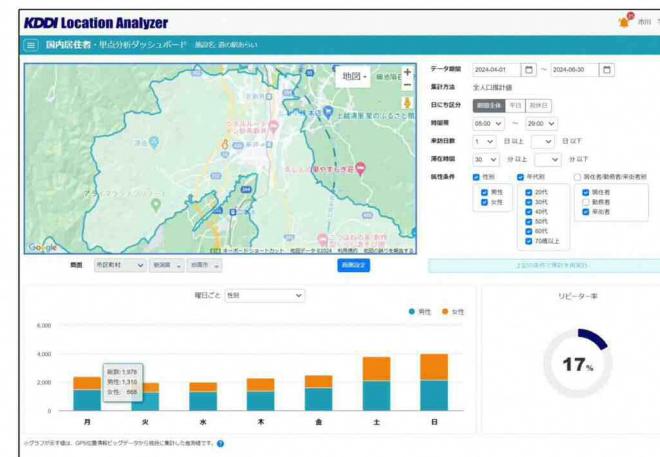
対象：人流データより、道の駅あらい利用者を抽出
調査データ：(2023年8月～2024年8月(1年間))
※KDDI社開発のKDDI Location Analyzer 活用

【道の駅来訪割合(居住地別)】

○道の駅あらいは、妙高市民だけでなく、上越市民の来訪回数割合も高い

来訪者 居住地	道の駅総来訪回数における道の駅別割合		
	妙高市	上越市	長野市
来訪回数 から見た 利用割合 が高い道 の駅 (上位4つ)	1位 あらい (65.5%)	あらい (33.0%)	信州新町 (12.4%)
	2位 能生 (3.7%)	よしかわ杜氏の 里(14.3%)	オアシスおぶせ (10.1%)
	3位 しなの (3.5%)	しなの (3.5%)	あらい (9.5%)
	4位 千曲川 (3.3%)	千曲川 (3.3%)	千曲川 (6.3%)

【参考】 KDDI Location Analyzer



KDDI Location Analyzer操作画面

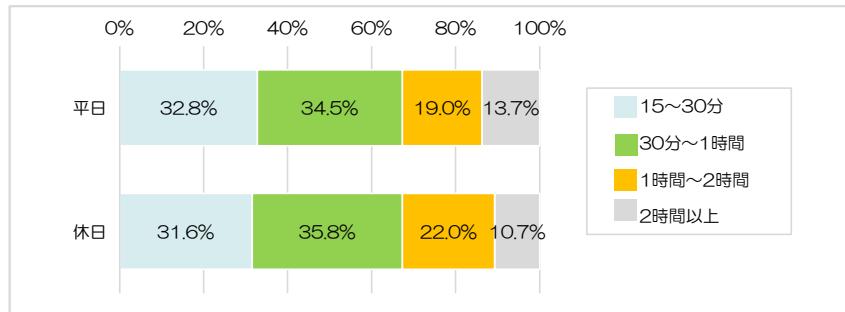
人流データ分析は、
KDDI社が保有する
高精度GPSデータを
もとに分析を実施。

データからは、属性
情報(性別、年代、居
住地)が、施設単位
で分析が可能。

2. 現況分析

【滞在時間(平日・休日別)】

○道の駅「あらい」の滞在時間は、30~60分が最も多く、平日・休日を問わず、60分以下の割合が全体の約7割

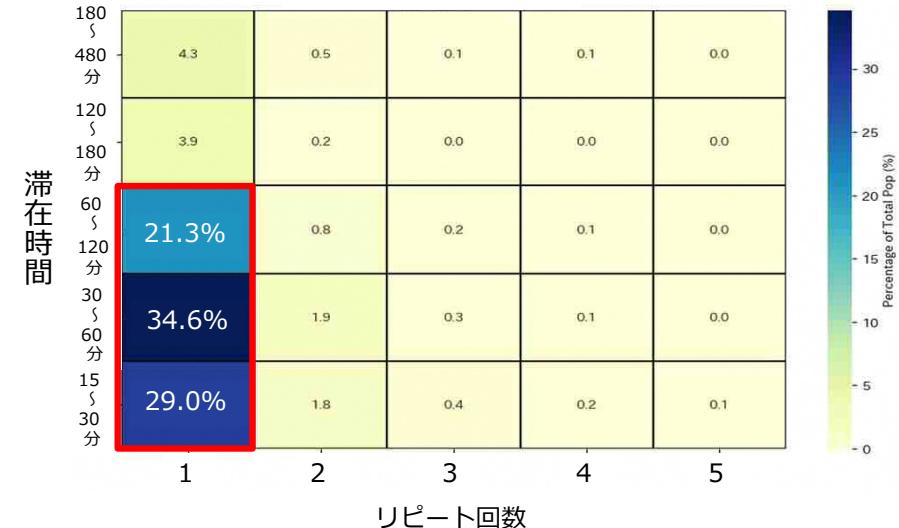


【リピート回数(年代別)】

○道の駅「あらい」に60分以上、滞在されている方について、妙高市内、妙高市以外で比較すると、妙高市内では、「30歳代、女性」、「40歳代、女性」の利用割合が、妙高市外と比べて低い

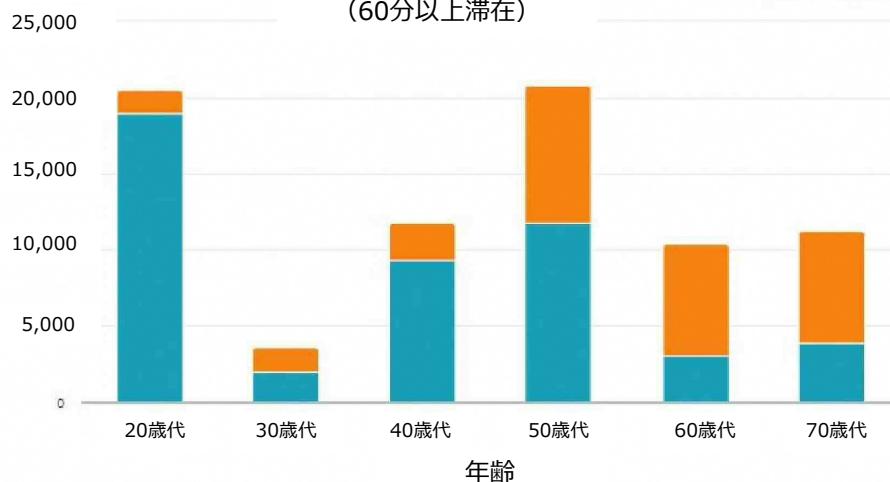
【リピート回数(年代別)】

○訪問者の多くは、1回目の訪問



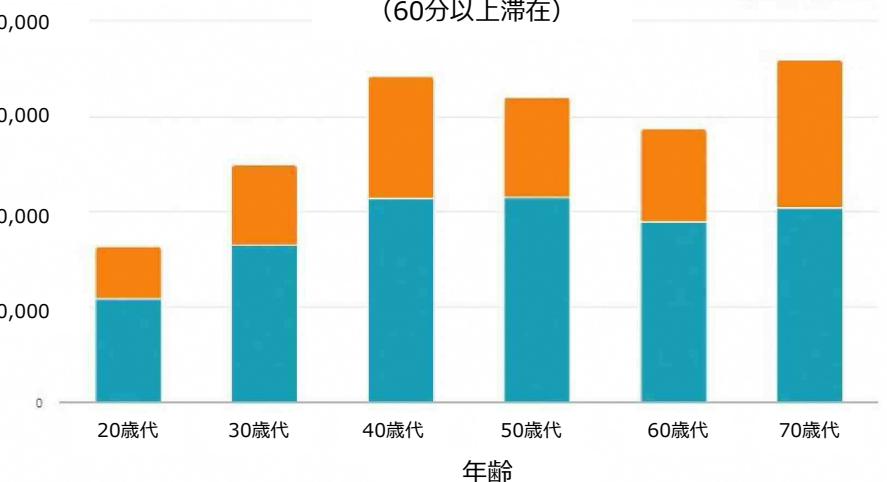
来訪者数（人）

妙高市内からの来訪者 (60分以上滞在)



来訪者数（人）

妙高市外からの来訪者 (60分以上滞在)

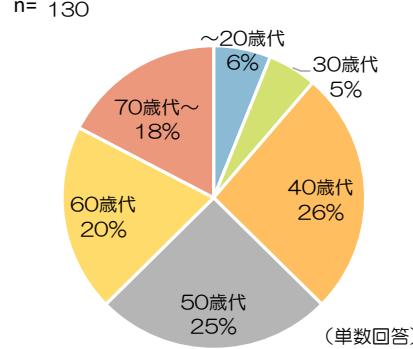


2. 現況分析

道の駅「あらい」の改修に対する「道の駅」利用者等に対して実施したアンケート調査結果について、以下に示します。

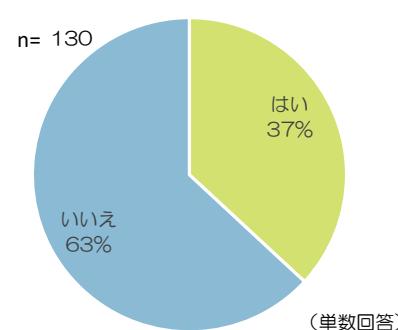
＜道の駅あらい利用者アンケート＞

【年代】



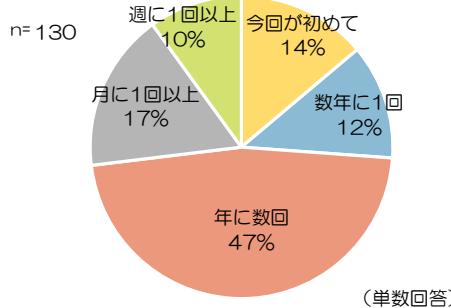
【新井PAからの利用】

○新井PAからの利用者は全体の37%



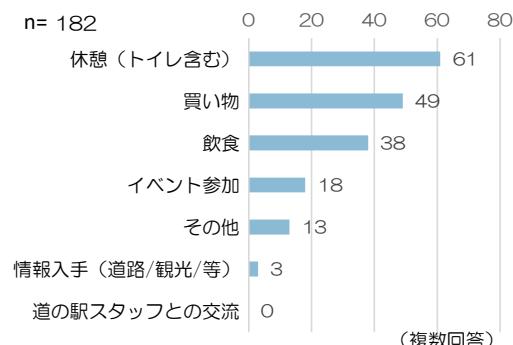
【来訪頻度】

○来訪頻度は年に数回が47%で最多、月に1回以上と週に1回以上の合計が27%



【来訪目的】

○来訪目的は休憩が最多



調査対象:道の駅「あらい」利用者

調査期間:2024. 8/9～8/10

回収票数:計130票(西側88票、東側42票)

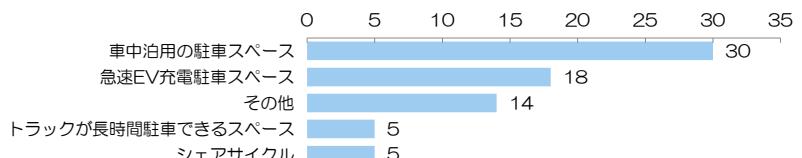
回答者属性:「男性59%、女性41%」、「市内居住者23%、市外居住者77%」

Q 新しい道の駅「あらい」に欲しい施設や取組についてお答えください

○車中泊用の駐車スペース、食事できるテーブル・ベンチ、キッズコーナー、食事処や宿泊の紹介・予約窓口、フードコート、体験の場を要望

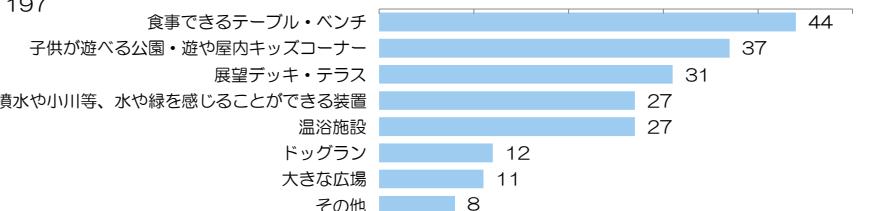
＜駐車場＞

n= 72



＜休憩＞

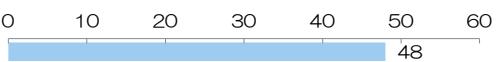
n= 197



＜情報提供＞

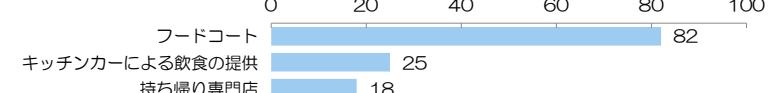
n= 111

市内の食堂や宿泊施設などの紹介・予約窓口 48
自分で地域・観光情報を検索できるスペースと組み 31
妙高市の文化・歴史等を紹介する施設 28
その他 4



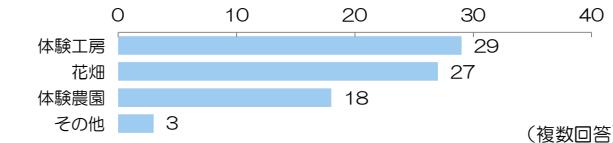
＜飲食＞

n= 134



＜観光＞

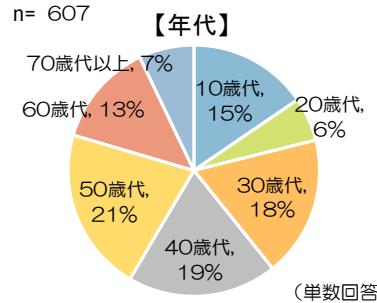
n= 77



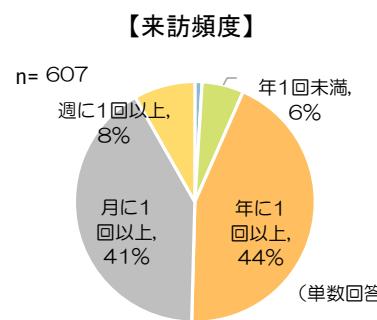
※ 5%未満はラベル省略

2. 現況分析

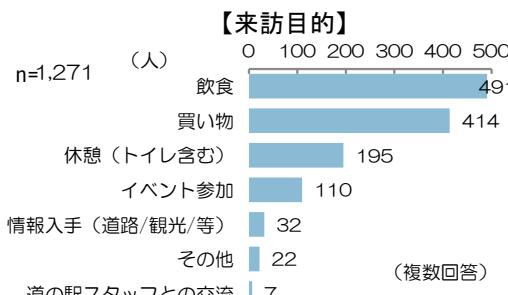
<妙高市 市民アンケート>



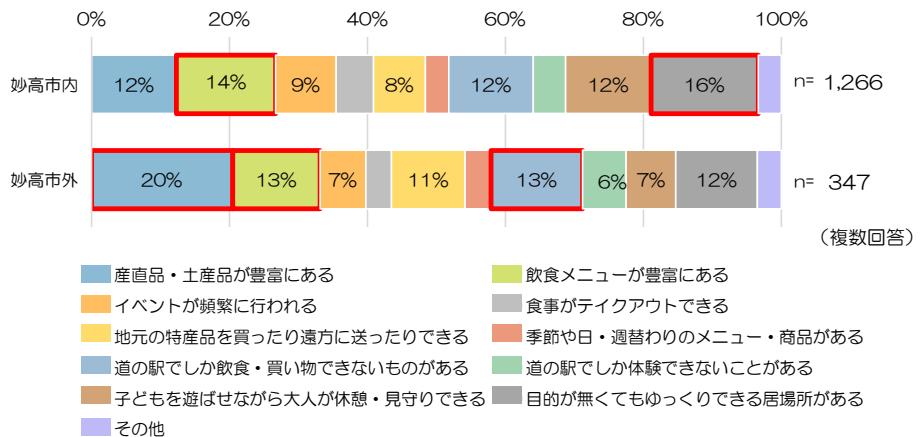
調査方法: 紙とWEBの併用(紙の調査票は道の駅と市役所に設置、WEB回答フォームのアクセスコードはLINE、Instagram、HP、道の駅、市役所に掲載)
 調査期間: 2025. 7/30~8/31
 回収票数: 計607票(紙43票、WEB558票)
 回答者属性「男性38%、女性60%、その他2%」、「市内居住者78%、市外居住者22%」



- 来訪頻度は年に1回以上が44%で最多、月に1回以上と週に1回以上の合計が49%
- 市内居住者の回答者が多いなかでも、週に1回以上の利用は8%
- 来訪目的は飲食が最多

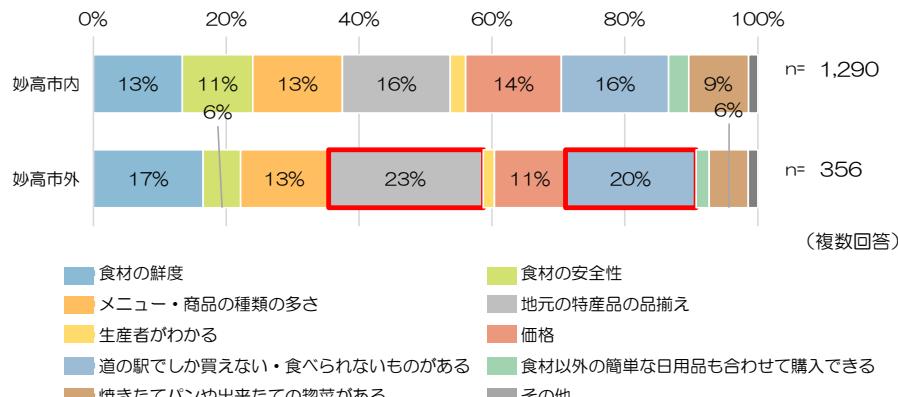


- Q 新しい道の駅「あらい」に何があれば、魅力を感じて何度も訪れたいと思いますか?
- 市内居住者は、目的が無くてもゆっくり過ごせる居場所と飲食メニューの豊富さを重視
 - 市外居住者は、産直品・土産品・飲食メニューの豊富さや独自性・希少性を重視



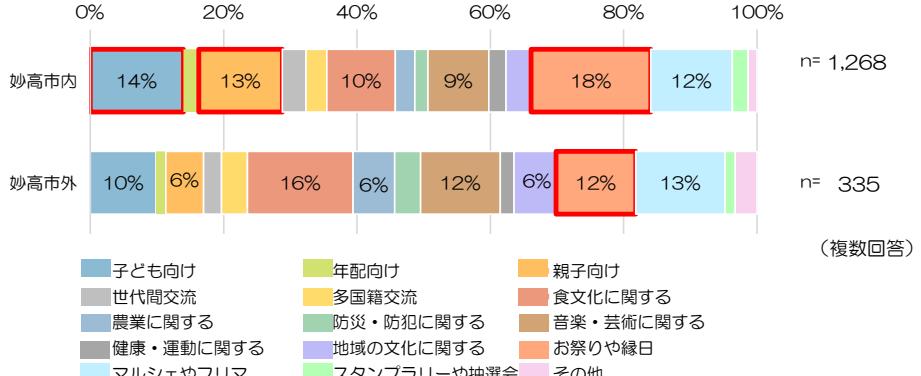
Q 新しい道の駅「あらい」で飲食や物品購入をするときに、何が重要だと思いますか?

- 飲食・物販は、地元特産品の品ぞろえ、物販・飲食メニューの希少性、食材の鮮度を重視
- 市外居住者は特に、地元特産品の品ぞろえ、道の駅でしか得られない希少性を重視



Q 新しい道の駅「あらい」でどのようなイベントを開催していきたいと思いますか?

- お祭り、マルシェ、食文化、音楽・芸術に関連するイベントは、居住地や年代を問わず人気
- 市内居住者は子ども向け、親子向けイベントの人気も高い



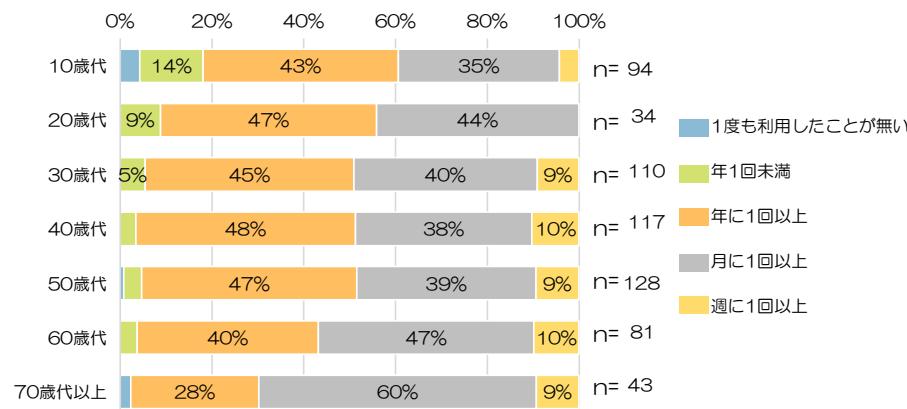
※ 5%未満はラベル省略

2. 現況分析

<妙高市 市民アンケート>

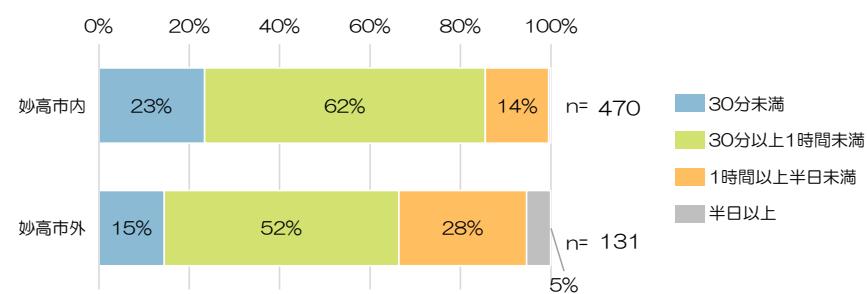
Q 年代別来訪頻度

○年代が高いほど「月に1回以上」来訪している割合が高い



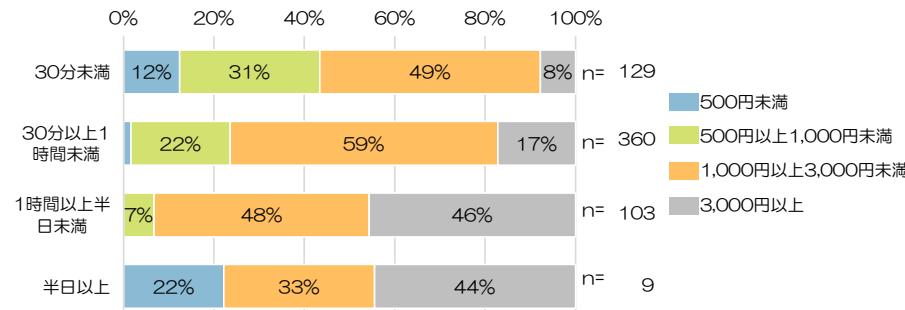
Q 居住地別滞在時間

○市外居住者の方が滞在時間は長い



Q 滞在時間別支払い金額

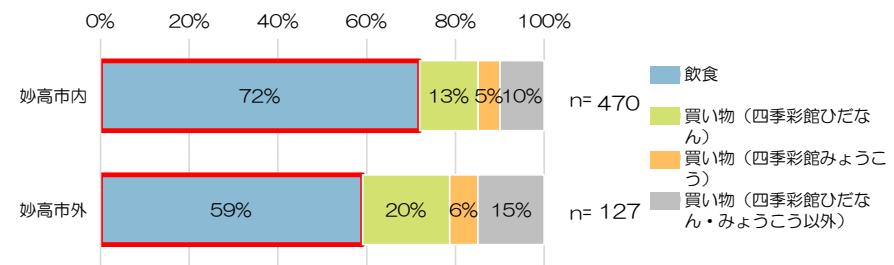
○半日程度までは、滞在時間が長いほど支払い単価は上がる



Q 主な支払い目的

○主な支払い目的は市内、市外居住者ともに飲食が最多

○市外居住者は四季彩館ひだなんでの買い物を主としている人も多い



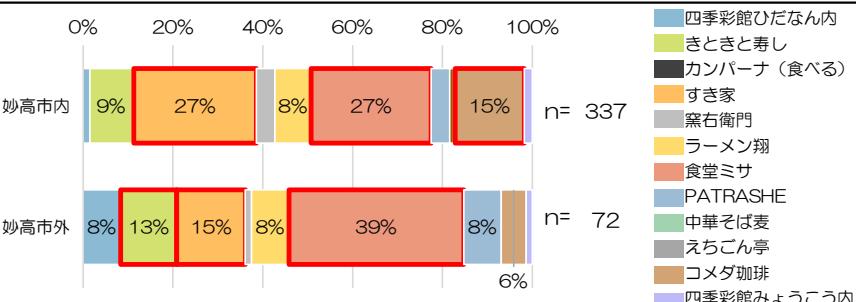
Q 購入した商品

○購入品は野菜・山菜が最多で、市内居住者は次いで海鮮、市外居住者は土産



Q 利用した飲食店

○飲食店の利用は食堂ミサとすき家が市内・市外居住者のいずれも多く、市内居住者は次いでコメダ珈琲、市外居住者はきときと寿し

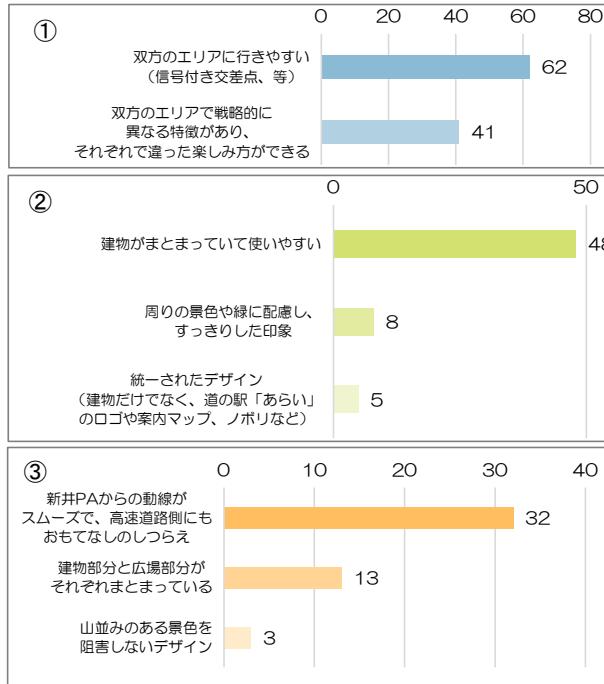
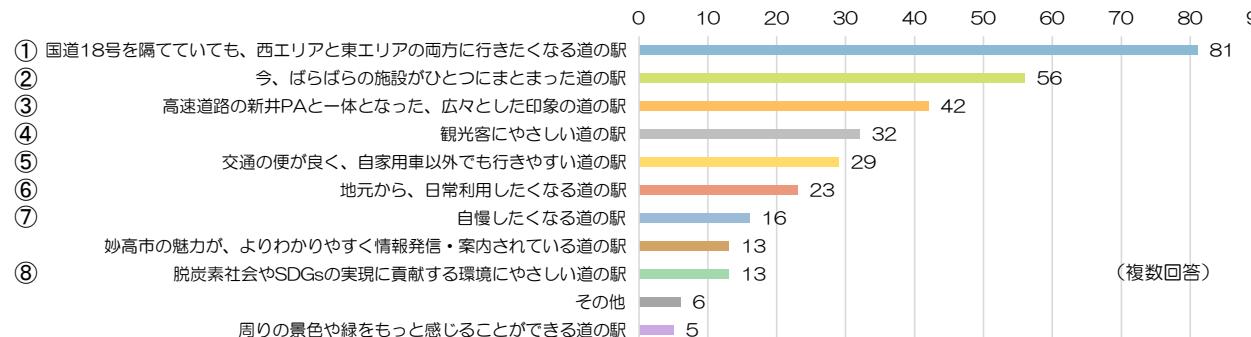


2. 現況分析

<道の駅あらい利用者アンケート>

Q 新しい道の駅「あらい」がどのような道の駅になってほしいですか？

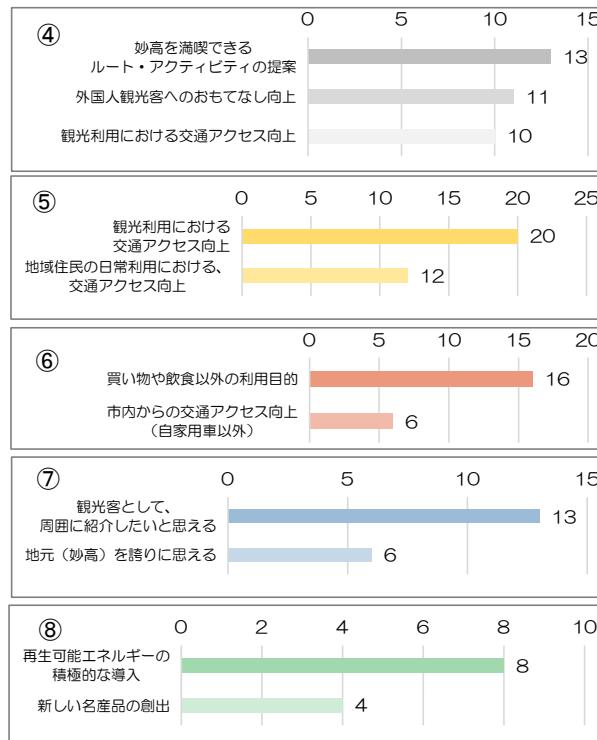
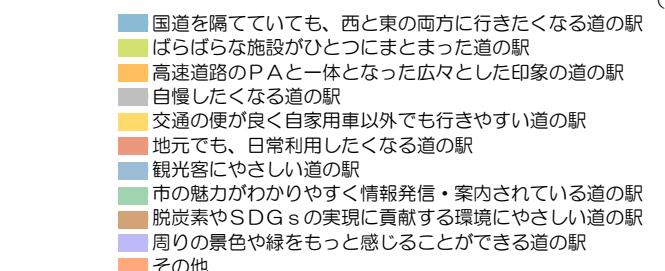
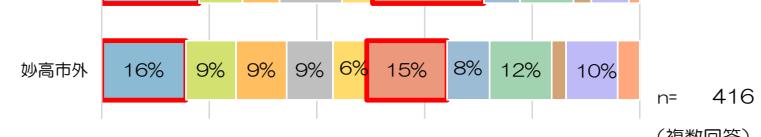
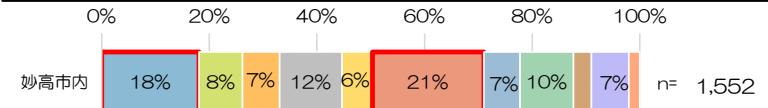
- 東西エリアや施設間、道の駅とPAの一体化など、スポットとしての統一感を期待
- 観光客への対応として、ご当地のアクティビティ需要や交通アクセスの改善を期待



<妙高市 市民アンケート>

Q 新しい道の駅「あらい」がどのような道の駅になってほしいですか？

- 地元で日常利用される道の駅となることを、市内だけではなく市外居住者も期待
- 国道を隔てていても東西の両方に行きたくなることを市内外居住者が期待



期待するイメージに関するその他の自由意見

- ・公園のように気軽に訪れて、軽い食事をしたり、1日のんびり過ごせる場所
- ・他県の人が新潟を調べたときに、おすすめスポットとされる道の駅
- ・きれいなトイレと美味しい食事、地元のお土産がいつでも得られる場所
- ・雪国でも、冬も夏も利用できる場所
- ・何度も行って飽きない、いつもわくわく感のある道の駅
- ・歩いて回遊したくなる道の駅
- ・地域の玄関口として、地域の個性が際立つ道の駅
- ・市内の若い世代や市外の方に興味を持って地域の良さを知ってもらえる「地元感」が感じられる場所
- ・施設が分かれている、デザインや世界観に一体感のある道の駅
- ・妙高や上越地域全体に効果が波及する道の駅 等

※ 5 %未満はラベル省略

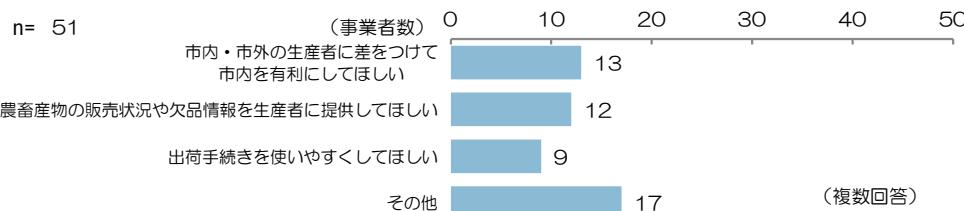
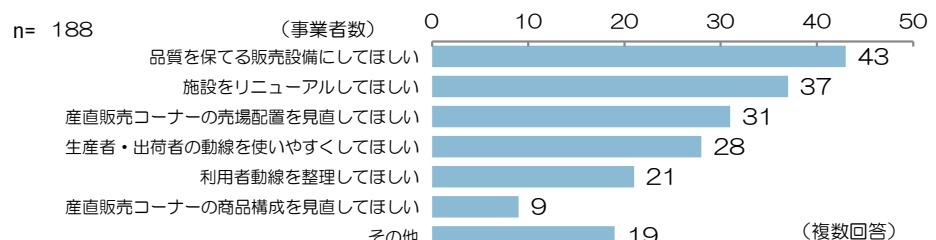
2. 現況分析

<妙高市 民間事業者アンケート>

農業

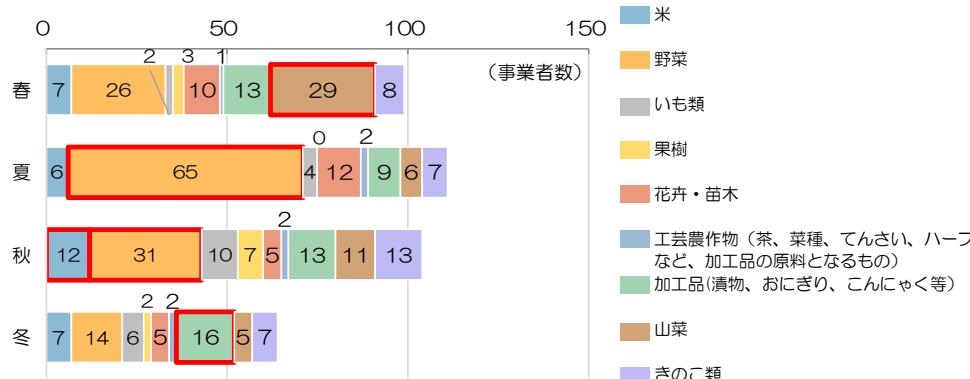
Q 道の駅「あらい」への出荷経験を踏まえ、改善を希望すること

- 施設では、品質を保てる販売設備と作業・売場スペースの拡大を含む施設のリニューアル、見やすく買いたくなる直売所の配置見直しを要望(その他セキュリティ対策、レシピPR、集荷支援、清潔感・明るさの維持など)
- 運営方法・システムでは、市内生産者の有利性、欠品情報の即時提供を要望



Q 現状の生産品目別事業者数

- 冬季の出荷事業者、品目が少ない
- 春は山菜、夏は野菜、秋は野菜と米、冬は加工品と季節により主軸の品目が変化

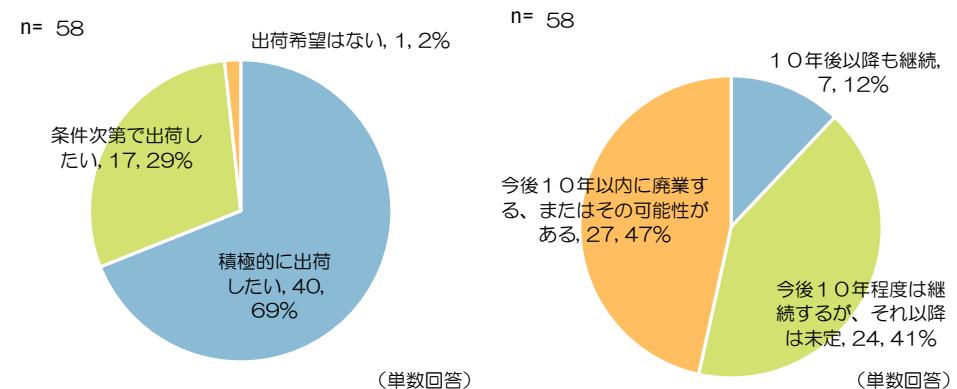


調査方法: ひだなんから紙の調査票を出荷登録者に配布
農業 調査期間: 2025. 8/1~8/15
回収票数: 計62票(380票配布)

調査方法: 新井商工会議所からWEB回答の依頼状を配布
商業 調査期間: 2025. 8/1~8/19
回収票数: 計14票(700票配布)

Q 新しい道の駅「あらい」への出荷意向、将来的な営農の継続意向

- 出荷意向のある事業者は69%である一方、**凡そ10年内に廃業する可能性のある事業者が47%**



商業

Q 新しい道の駅「あらい」の商品開発に関する意見・提案

■市民ニーズと農産物等の素材を踏まえた商品開発のアイディア

- ①和洋菓子・氷菓・パン
かんずりチョコソフトクリーム
ハーブで香りづけしたソフトクリーム など



②惣菜・軽食・テイクアウト品

- かんずり揚げ団子
妙高産米を使い、農産物等を具に混ぜたおにぎり
ハーブティー など



③妙高らしい独自の加工品

- 健康食品(ライスプロテイン、もぐさ灸) など



④リニューアル記念オリジナル商品

- 妙高市の酒造共同オリジナルラベル日本酒 など



■協力にあたっての課題

- 人員不足、加工場の確保、地元事業者同士のマッチング機会の確保、運営方針の情報共有

2. 現況分析

＜近年の「道の駅」における、にぎわいづくりのための取り組み＞

新潟県道の駅ランキングの上位対象や、国内の道の駅の中でも、利用者が多い「道の駅」を対象に、道の駅「あらい」リニューアルにおける“にぎわいづくり”的参考となるポイントを整理しました。

	道の駅 新潟ふるさと村 (新潟県新潟市)	道の駅 能生 (新潟県糸魚川市)	道の駅 常総 (茨城県常総市)	道の駅 かさま (茨城県笠間市)	道の駅 むなかた (福岡県宗像市)
参考となるポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の全30市町村、計1万点もの物産品の販売(市内に限定せず、圧倒的な種類の多さ) ・積極的な団体誘致による集客(最大460名収容の予約制団体専用レストラン。常時15種類の体験教室を校外学習・福祉施設向けに開催) ・家族で楽しめる空間づくり(花畠、ふるさと庭園、全天候型の屋内アスレチック) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ズワイガニに特化した物販・飲食提供(日本海側最大級の直売所、買ってその場で食べられる) ・海産関連の食イベントの定期開催による集客(1月 あんこう、3月 浜汁、6月 カニ、10月 豊漁祭、等) ・海を活用した施設づくり(海の資料館「越山丸」、マリンミュージアム「海洋」) 	<ul style="list-style-type: none"> ・人気商品による集客(カスタードメロンパン、贅沢オムバーグ、パンケーキ等) ・周辺企業と道の駅直売所等の連携 ・話題性のあるイベント実施や戦略的なメディア露出によるPR戦略(野菜10円市、詰め放題イベント、ギネス記録挑戦等) ・多くの商品を展示できる立体陳列を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域特産物を活用した限定商品による集客(笠間産の栗を用いたモンブラン等) ・出荷者や学生との連携(出荷者への野菜栽培等の勉強会、学生とのコラボ商品) ・多目的広場等におけるイベント開催による集客(毎月の朝市、農福連携マルシェ、ダンスイベント等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新鮮な魚介類等の販売による集客(活魚、干物、乾物、農産物、畜産物、加工食品、花き等) ・フードロス対策の仕組み化(毎日の入荷状況を毎日発信、魚など品余りを加工・販売) ・車中泊専用スペースを設置。 ・コンシェルジュがいる観光ステーションの設置
飲食	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟の郷土料理(へぎそば、タレカツ、燕三条ラーメン等) ・団体専用の予約制レストラン 	<ul style="list-style-type: none"> ・買ったばかりのカニをその場で食べられる「カニかいに館」 	<ul style="list-style-type: none"> ・“映え”を意識したメニュー提供 ・飲食店2軒と、パン、ソフトクリーム、焼き芋などの軽食販売 	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅グルメイベント2連覇の笠間和栗を使用したモンブラン製造工程を見せる工夫 ・フードコート形式による休憩スペースの確保(食事時間以外での空間の有効活用) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元食材の漁師料理・農家料理を一品ずつ選べるカフェテリア方式で提供 ・地元産の米を用いたパンなど、軽食やテイクアウト店舗
物販	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟物産展(県内の产品)開催 ・チャレンジショップの設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・ズワイガニ直売所「かにや横丁」(9軒) ・隣の能生漁港から直送「鮮魚センター」や特産品「糸魚川産ヒスイ」、地元酒蔵の日本酒販売 	<ul style="list-style-type: none"> ・メロン、サツマイモ、卵など、県内の特産品による商品展開 ・多くの商品を展示できる立体陳列を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・直売所への出荷者に対する、栽培講習会や農薬適正使用の勉強会を実施 ・学生とのコラボでオリジナル商品開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPで「本日の入荷状況」(農海産物)を情報提供 ・魚や野菜の品余りを加工商品化

【まとめ】

- ①家族で楽しめる空間づくり、②イベントの定期開催、③フードコート形式による休憩スペースの確保
- ④そこでしか買えない、食べられない商品の提供、⑤自由度が高い飲食方法の提供、⑥メディア露出によるPR推進

3. 商圏から見た集客ポテンシャル

<商圏調査>

「道の駅」の客層を「足元客」、「ミニ観光客」、「遠方観光客」の3種類と想定し、道の駅「あらい」の商圏人口を調査しました。

足元商圏における10分商圏の人口は、約2.2万人であり、居住地としては、妙高市新井地域が多くを占める。一方、20分商圏の人口は、約6.6万人であり、妙高市のほか上越市的一部分が含まれます。

ミニ観光商圏における30分商圏の人口は、約13.4万人であり、上越市の大部分が含まれます。

表 商圏の概要(一般論)

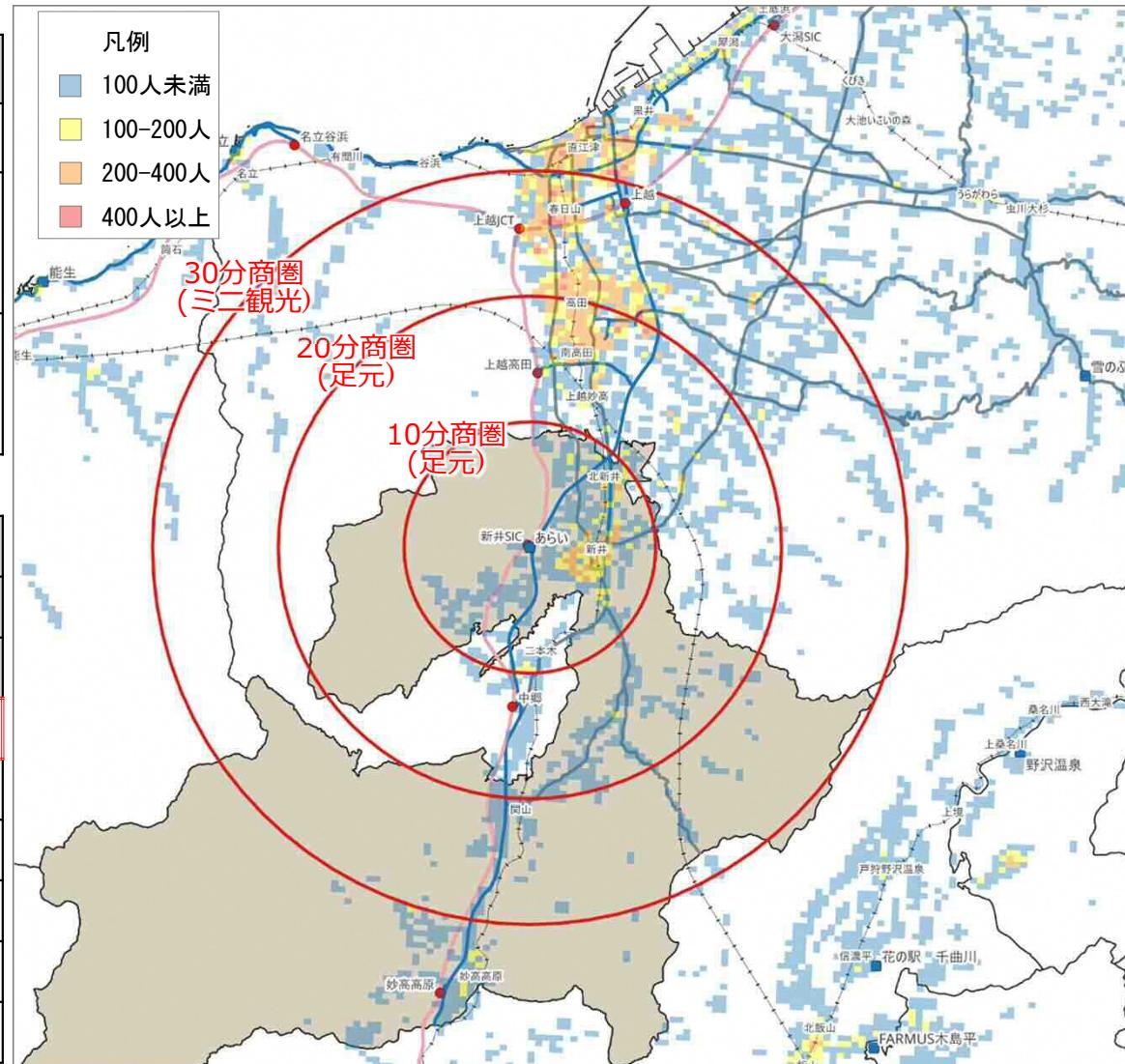
客層	居住地 (車移動)	利用頻度	購買の特性
足元客	10~20分 5~10km圏	毎日 ~週1回	<ul style="list-style-type: none"> 普段使いとして、日用品の購買が多い カフェでの休憩もある
ミニ観光客	20~30分 10~15km圏	月1~2回	<ul style="list-style-type: none"> ときどき訪れる、平日や休日の利用が混在 日用品や土産ものの購買、イベント利用、スイーツが対象 単価設定が足元商圏に比べて高くなる
遠方観光客	30分以上 15km圏以上	年に数回	<ul style="list-style-type: none"> わざわざ訪れる観光利用 日用品の購買は、足元客やミニ観光客に比べて多くないが、お土産等の購買がより多くなり、単価設定がより高くなる

表 「道の駅あらい」の対象商圏における人口実数

内数	性別	足元商圏		ミニ観光商圏	
		10分商圏内		20分商圏内	
		実数	構成比	実数	構成比
	男性	22,580	100.0%	66,401	100.0%
	女性	65,554	49%	134,476	100.0%
年 代 別	0~14歳	11,582	51%	34,411	52%
	15~64歳	2,580	11%	7,503	11%
	65歳以上	12,264	54%	16,018	12%
		7,651	34%	23,155	35%
		43,065	32%		

※人口データは、総務省統計局「国勢調査(令和2年)」より抽出・加工。

データの特性上、年代別人口の合計は人口総数と一致しない。



3. 交通量から見た集客ポテンシャル

＜交通量からみた利用者数の想定＞

道の駅「あらい」に接する国道18号および上信越自動車道の交通量(いずれも、R3交通センサス)及び、国土交通省による調査資料にある道の駅「あらい」の「立寄率」を参考に、道の駅「あらい」の交通量からみた利用者ポテンシャルを推計しました。
その結果、**交通量からみた、道の駅「あらい」の利用者ポテンシャルは、年間、約300万人**と推計されます。

■国道18号からの利用者

○予測式

$$\text{利用者数} = \text{前面交通量} \times \text{立寄率} \times \text{平均乗車人数}$$

※前面交通量：国道18号の令和3年度 全国道路・街路交通情勢調査結果を使用。将来も交通量は現状維持するもの(横ばい)と想定
立寄率：国土交通量資料、休日12時間調査
平均乗車人数：令和3年度 全国道路・街路交通情勢調査 自動車起終点調査（OD調査）の平均輸送人数を採用

小型車：日交通量 [10,905台] × 立寄率 [34%] × 平均乗車人数 [1.30人/台] × 年間日数 [365日] = 1,759,304人

大型車：日交通量 [2,330台] × 立寄率 [17%] × 平均乗車人数 [1.06人/台] × 年間日数 [365日] = 153,251人

合計：1,912,555人

■上信越自動車道からの利用者

令和6年8月に利用者向けに実施した「道の駅『あらい』リニューアルに向けたアンケート調査」によると、道の駅「あらい」の利用者全体の内、上信越自動車道新井PAからの来訪は37%となっています。

国道18号からの利用者数の試算結果をもとに、上信越自動車道新井PAからの年間利用者数を算定しました。

(国道18号からの利用者数) : (新井PAからの利用者数) = 63% : 37%

(新井PAからの利用者数) = 37% ÷ 63% × 1,912,555 = 1,123,247人

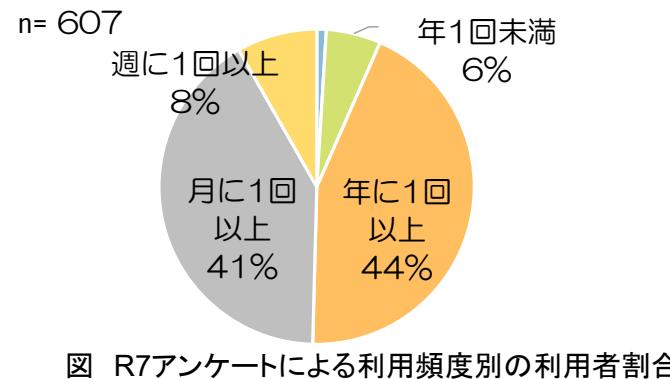
道の駅あらいの想定利用者数

= 国道18号利用者[1,912,555人] + 上信越自動車道利用者[1,123,247人] = 3,035,802人

4. 集客ポテンシャルから見た目標値の設定

①入込客数の目標値

- まず、交通量より、道の駅「あらい」の利用者ポテンシャルは、年間、約300万人と推計されます。
 - 次に、市民アンケートより、道の駅「あらい」の来訪頻度は、「年に1回以上」、「月に1回以上」が8割強を占めています。
 - そのため、魅力ある施設改修は、「道の駅」利用をさらに促進すべく、**周辺地域(30分商圏内)に在住する、「道の駅」の主な利用者層である15-64歳を対象に利用頻度の倍増や、新井PAからの利用者をはじめとする、遠方から観光客を現状の1.5倍獲得を目指します。**
- ⇒以上により、現状の利用者数である約285万人から約155万人の増加を図り、**約440万人/年**の達成を目指します。



【来訪人数 増加 取り組み】

- 妙高市市内 利用者を中心とした来訪頻度の向上 → 改修前)年1回、月1回、週1回 → 改修後)年2回、月2回、週2回以上
新井PAからの来訪者数の向上 → 改修前)遠方からの来訪者 → 改修後)遠方からの来訪者 1.5倍

②売上高の目標値

- 利用者の滞在時間を延伸**するとともに、付加価値の高い「道の駅あらい」ならではの商品展開や、施設の夜間利用促進により、**利用者一人あたりの消費額(客単価)の拡大**、現状の750円/人から1,000円/人まで高めます。

⇒利用者数の目標440万人/年 × 客単価1,000円/人
≒ 年間の売上高目標 **44億円**

【客単価に起因する利用イメージ】

○日常使い来訪客

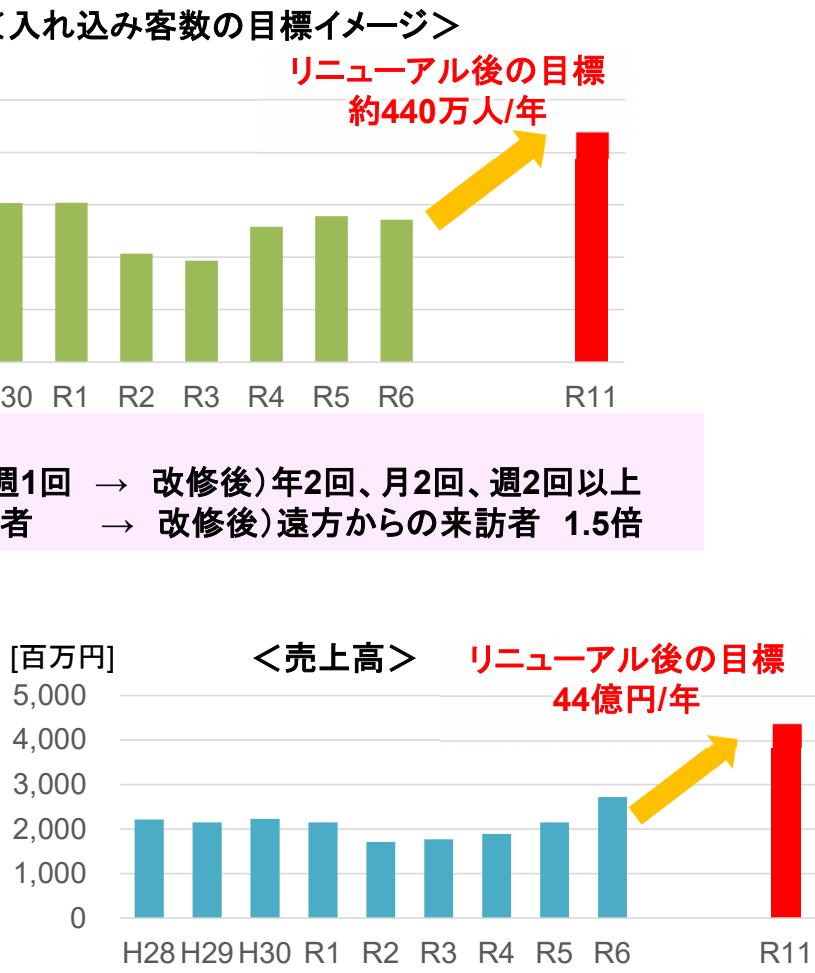
→地区行事の相談を「コーヒー」を飲みながら、休憩スペースで実施。
→屋内遊戯場で子供を遊ばせながら、知り合いと「スイーツ」を食べながら談笑
→忙しいときに、ちょっとした惣菜を購入。

○観光客(日帰り)

→限定商品の購入や、地元食材を使った食事を楽しむために立ち寄り。

○観光客(宿泊)

→飲食施設をはじめとする、24時間利用可能なサービス利用。



【売上高 増加 取り組み】

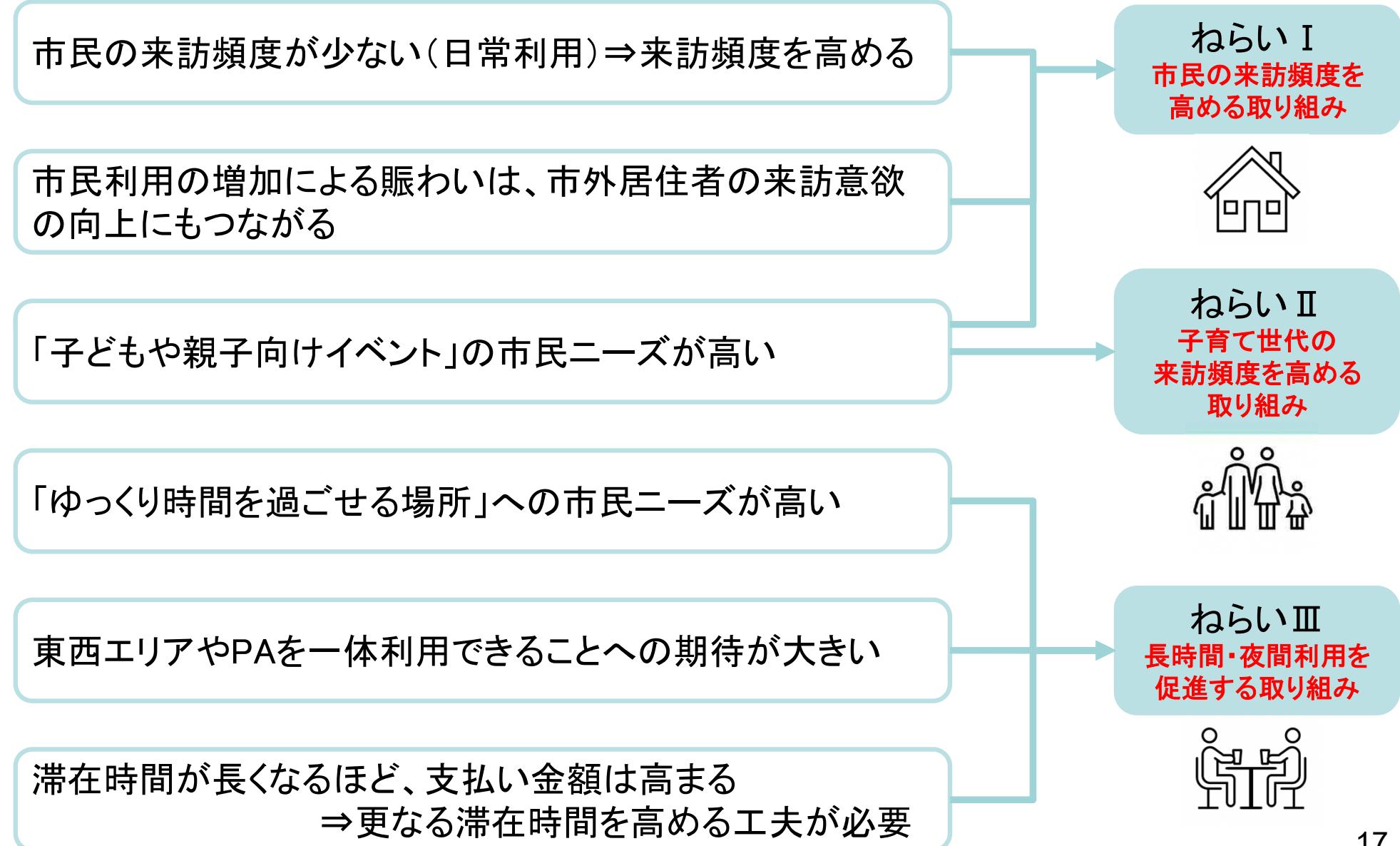
- 妙高市内、利用者を中心とした客単価の向上 → 改修前) 平均 750円／人 → 改修後) 平均 1,000円／人

5. 目標値の達成に向けて取り組むべき事項

③目標達成のためのメインターゲット

これまでの現況分析をもとに、道の駅改修にあたって目標を達成するために意識すべき**メインターゲット(ねらい)**を、以下に示します。

<現況分析から得られた知見(課題)>



5. 目標値の達成に向けて取り組むべき事項

目標を達成するために実施すべき取り組み

目標を達成するために、3つのメインターゲット(ねらい)に対し、実施すべき取り組みについて、以下に示します。

目標

ねらい I
市民

ねらい II
子育て
世代

ねらい III
長時間・
夜間

目標達成のために実施すべき取り組み

利用者数(来訪頻度増加)

【道の駅】

✓	✓		子どもの遊び場、スポーツなど 目的性のある機能 を導入
✓		✓	カフェや休憩スペースなど 居場所 を設け、日常生活での立寄り・利用促進
✓			通いたくなる、豊富で飽きない飲食メニューを提供
✓			旬の農産物や週替わりのお惣菜など、 期間限定商品 の展開で来訪を習慣化
✓	✓	✓	お祭り、マルシェ、食、音楽関連といった 幅広い層の集客を見込んだイベント 実施
	✓		子ども・親子向けといった、 ねらいを定めたイベント も並行して実施

【民間区域・PAを含む全体】

✓	✓		健診や案内サービスなど 目的性のある機能 を誘致
✓	✓		HPやSNS、地域内放送での 情報発信

売上高(客単価増加)

【道の駅】

✓	✓		既存商品を 魅力的に陳列・PR
✓	✓		手軽で子どもや高齢者も飲食しやすい商品を提供
✓			妙高の素材を生かした、地域性が感じられる オリジナル商品 の開発
✓	✓	✓	子どもの遊び場や休憩スペース、 RVパーク整備 による滞在時間の延長促進
		✓	夜間利用もできる店舗 の拡充

【民間区域・PAを含む全体】

✓	✓	✓	遊歩道や案内サインの整備による 一体的な空間演出と回遊促進
✓	✓	✓	東西エリアをつなぐ移動手段を確保 し、回遊を促進
✓		✓	ニーズを踏まえた営業時間 とすることで、滞在時間を延長

6. 道の駅 再整備のコンセプト

道の駅「あらい」のリニューアルでは、地域全体の魅力を高めるために、「まち」と「道の駅」が共有するコンセプトとして、『みんなのチカラ』と『まちの魅力』の好循環の実現を目指します。

そして、「道の駅あらい」を、「まち」を成長させる大きな歯車として位置づけ、**地域とともに利益を生み出し、その収益や元気を再び地域に還元していく循環装置**となることを目指します。

このリニューアルの取組は、**さまざまな人や組織がつながり合い、“まちぐるみで挑戦する”**ことによって進めていきます。

<再整備によってめざすもの>

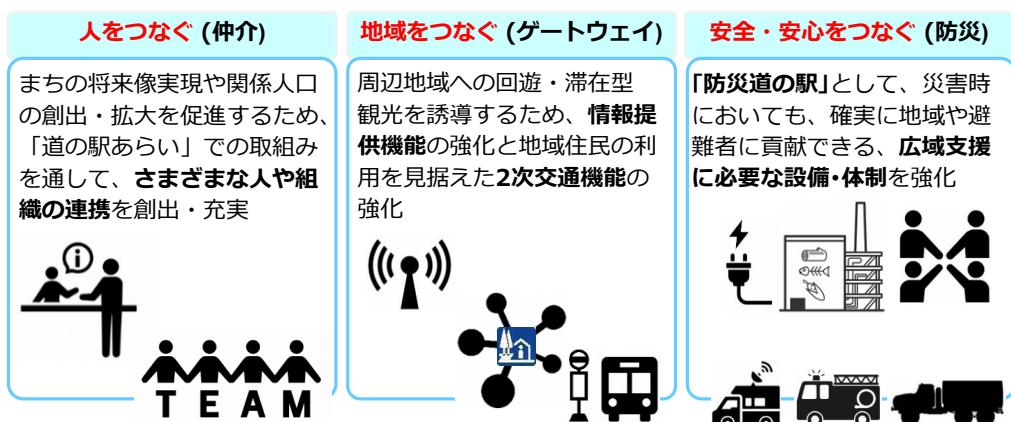
“みんなのチカラ”と“まちの魅力”的な好循環

- ・「道の駅あらい」のリニューアルで「まち」「道の駅」が共に目指すのは、**まちの魅力が人を呼び、人のもつチカラがまちを元気にして、さらなる魅力的なまちへ成長する好循環の創出**
- ・リニューアルを通じた多くの挑戦に、「誰もが参加可能」で、**「みんなのチカラをつなぎ、大きなチカラに仕立て」**ていき、「人とまちの魅力をつなぐ機会を提供」するための取組みを推進



地域と共に利益を最大化し、収益・元気を地域に還元する循環装置

- ・共通コンセプト実現に向けた「道の駅あらい」の役割は、**さまざまな人や組織とつながりながら、「まち」を成長させる大きな歯車として、地域と共に生み出す利益を最大化し、得られる収益や元気を地域に還元する循環装置**となること
- ・そのため、**「人をつなぐ(仲介)」、「地域をつなぐ(ゲートウェイ)」、「安全・安心をつなぐ(防災)」**ための取り組みを実施



妙高市が抱える課題を「道の駅あらい」のリニューアルを通じて、
“まちぐるみで挑戦”

6. コンセプト実現のための取り組み

<「道の駅」改修にあたり、まちづくりの観点から見た、必要な取り組み>

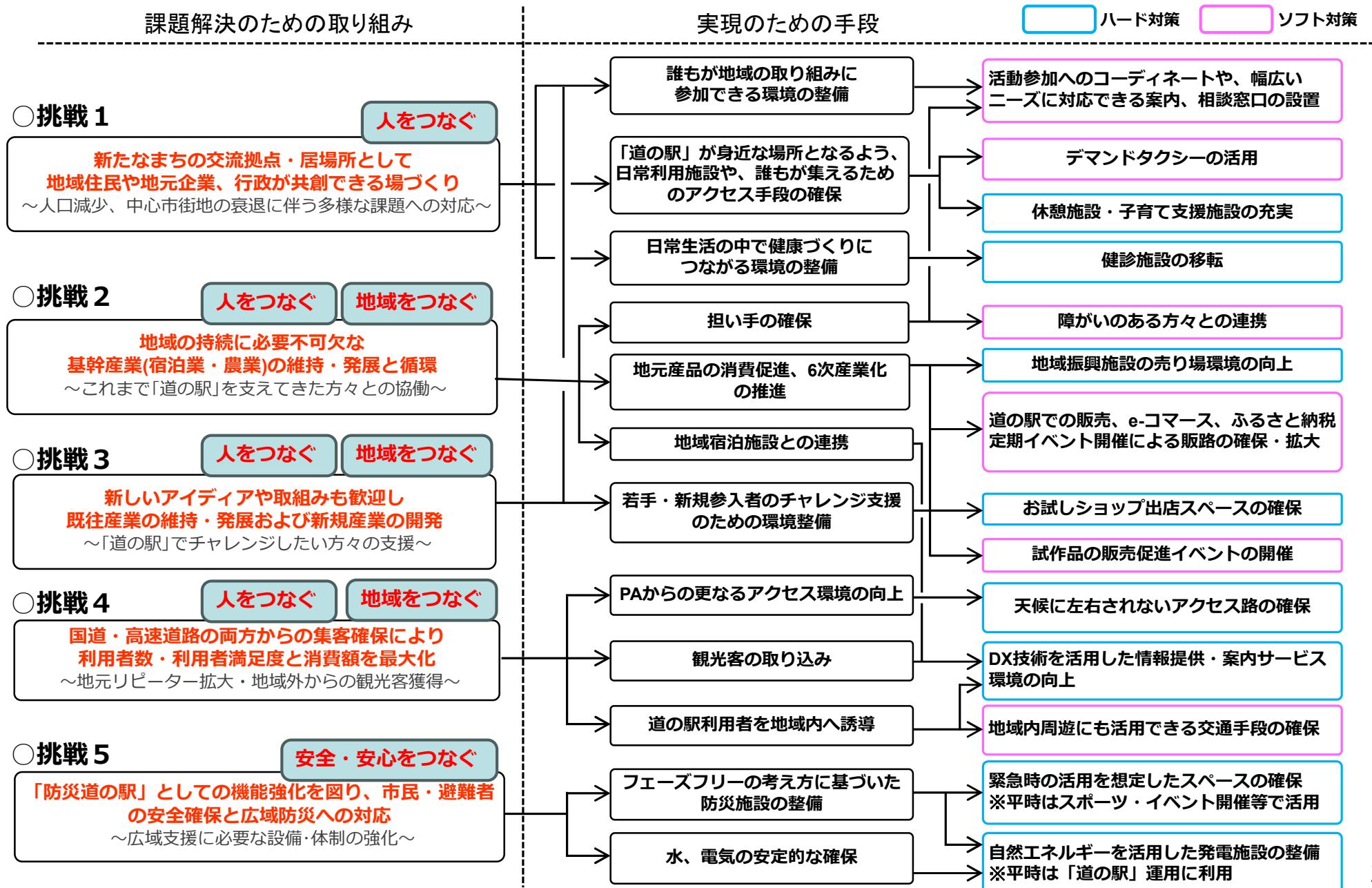
道の駅「あらい」の現状から抽出される、「まちづくり」の観点から見た、今後の課題と、その解決のために必要な 道の駅「あらい」における取り組みを、以下に示します。

現状	道の駅改修にあたっての課題	課題解決のための取り組み
<p>【妙高市】</p> <p><人 口> ・現在約3万人で減少傾向</p> <p><高齢化率> ・超高齢社会に直面(高齢化率30%)</p> <p><にぎわい> ・まちなか人口密度の低下／中心市街地のにぎわい減少／生活利便性の低下</p> <p><産 業> ・宿泊業が最多(企業数) ・農業作物では米が最多で野菜の順(野菜は漸増) ・農業従事者の高齢化が進行</p> <p><観光客> ・年間570万人で近年横ばい傾向、 ・外国人観光客は年間6万人(冬季に集中)</p> <p><まちづくり> ・SDGs未来都市に指定（令和3年）</p> <p>【道の駅「あらい」】 ・国道18号、上信越自動車道新井PAに接続 ・県内唯一の「防災道の駅」として登録(R3) 能登半島地震では避難車両で駐車場が満車 ・利用者数は減少傾向(R4で年間258万人) ・東西エリア間でギャップあり ・西エリアでは、建物の老朽化、機能の低下</p>	<p>【まちづくりに関する課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な地域コミュニティの構築 市民の健康増進 子育て応援の推進 安定した農業基盤の確保 観光を軸とした地域一体での「稼ぐ」仕組みづくりの推進 グリーンシーズンの観光誘客の推進 外国人観光客の受入れ環境の充実 脱炭素社会の実現 障がい者福祉の充実 <p>【施設改修】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新井PAとの連携促進 災害時における市民や避難者の安全確保 東西方向のアクセス性向上 	<p>【「道の駅」改修において必要な取り組み】</p> <p>人をつなぐ</p> <p>新たなまちの交流拠点・居場所として 地域住民や地元企業、行政が共創できる場づくり ～人口減少、中心市街地の衰退に伴う多様な課題への対応～</p> <p>人をつなぐ 地域をつなぐ</p> <p>地域の持続に必要不可欠な 基幹産業(宿泊業・農業)の維持・発展と循環 ～これまで「道の駅」を支えてきた方々との協働～</p> <p>人をつなぐ 地域をつなぐ</p> <p>新しいアイディアや取組みも歓迎し 既往産業の維持・発展および新規産業の開発 ～「道の駅」でチャレンジしたい方々の支援～</p> <p>地域をつなぐ</p> <p>国道・高速道路の両方からの集客確保により 利用者数・利用者満足度と消費額を最大化 ～地元リピーター拡大・地域外からの観光客獲得～</p> <p>安全・安心をつなぐ</p> <p>「防災道の駅」としての機能強化を図り、市民・避難者の安全確保と広域防災への対応 ～広域支援に必要な設備・体制の強化～</p>

6. コンセプト実現のための取り組み

<コンセプト実現のための手段>

ここでは、まちぐるみで挑戦する、道の駅「あらい」の再整備のコンセプト実現のための手段について、以下に示します。
なお、取り組みの詳細は、関係者との調整に伴い、変更する場合があります。



7. 道の駅 導入機能

ここでは、道の駅「あらい」の再整備における導入機能及び、その機能イメージについて、以下に示します。
なお、取り組みの詳細は、関係者との調整に伴い、変更する場合があります。

人をつなぐ

地域連携機能：地域ならではの特産品や食事、交流施設を通じて、人と人、地域と来訪者をつなぎ、誰もが地域の魅力を体感できる、にぎわいのある施設を整備

情報提供機能：移住・定住のきっかけとなる、地域活動への相談など、幅広い情報提供ニーズに対応できる施設を整備

地域をつなぐ

交通連携機能：道路利用者が様々な情報を得ることができ、誰もが、ゆっくりと休憩できる施設を整備

安全・安心をつなぐ

防災機能：広域防災拠点としての活用を見据えた施設を整備

	施設名称	人をつなぐ	地域をつなぐ	安全・安心をつなぐ
西側 (道の駅)	休憩スペース	●	●	
	トイレ・子育て応援施設	●		
	情報提供・相談コーナー	●	●	
	地域特産品 販売施設	●	●	
	飲食施設	●	●	
	地域特産品 体験施設	●	●	
	災害時初動対応スペース（平時：スポーツ施設）	●		●
	多目的広場（屋内子ども遊び場）	●	●	
	多目的会議室		●	●
	イベント広場		●	●
西側 その他	耐震貯水槽、防災備蓄スペース			●
	健診施設（民間）	●	●	●
東側	遊歩道（屋根あり）		●	
	ハウス栽培施設		●	
	災害時初動対応スペース（平時：スポーツ・RV）		●	●
	調整池（ドッグラン）	●	●	
	防災施設整備用地			●
	バイオマス発電施設（民間）		●	●

8.道の駅 導入機能イメージ(ハード)

●休憩スペース

人をつなぐ

地域をつなぐ

安全・安心をつなぐ

【整備方針】

- ・妙高の自然豊かな眺望や、イベント風景等を楽しむことができるよう、**屋内外に、ゆとりある休憩スペース**の確保を検討します。
- ・道の駅利用者が**思い思いの過ごし方を自由に選べる**よう、テーブルセットやカウンター、ベンチ、小上がりスペース等の整備を検討します。
- ・体験ツアーや妙高高原など**周辺観光地への発着・中継に対応した待合スペース**や、**飲食も楽しめるフードコート形式の休憩空間**を設け、観光客や地域住民がくつろげる、手に取った本を読みながらゆったりと過ごせるような環境の整備を検討します。



●トイレ・子育て応援施設

人をつなぐ

地域をつなぐ

安全・安心をつなぐ

【整備方針】

- ・誰もが安心して快適に利用できるよう、**ユニバーサルデザインの考え方**のもと、外国人旅行者等に分かりやすい多言語表記やピクトグラムの活用を検討します。
- ・施設内は、採光等により明るさを確保し、**清潔感のある空間**となるよう検討します。
- ・授乳室や複数のおむつ交換台の設置に加え、おむつの自動販売機や、ばら売り対応など、急なニーズにも対応できる、**子育て世代が安心して過ごせる環境**の整備を検討します。



●情報提供・相談コーナー

人をつなぐ

地域をつなぐ

安全・安心をつなぐ

【整備方針】

- ・道路利用者が道路状況、観光案内、災害情報など、必要な情報をいつでも取得できるよう、**24時間対応の情報提供環境**の整備を検討します。
- ・まちの玄関口としての魅力発信や周辺地域の周遊促進を目的に、旅行商品や宿泊情報をワンストップで案内する**総合インフォメーション「コンシェルジュ ミョウコーさん」**の設置を検討します。
- ・同施設内には、**移住・定住の相談窓口**を検討するとともに、地域イベントや活動への参加機会の提供を通じて、利用者と地域とのつながりを支援します。
- ・情報提供施設は、通行量の多い分かりやすい場所に配置し、**大型デジタルサイネージやチラシ棚、座って情報閲覧できるスペース**の整備を検討します。
- ・利用者自身の端末でも情報収集ができるよう、**無線LAN環境**の整備を検討します。
- ・外国人観光客への情報提供は、**AI技術を活用した案内システム**を導入し、多言語対応できる体制の整備を検討します。



8.道の駅 導入機能イメージ(ハード)

●地域特産品 販売施設

人をつなぐ

地域をつなぐ

安全・安心をつなぐ

【整備方針】

- ・店舗は、ベビーカーや車椅子でも安心して利用できる、ゆとりある通路幅等、**バリアフリー化を促進し、レイアウト変更にも柔軟に対応できる空間**となるよう検討します。
- ・売場は、**利用者が見やすく、手に取りやすい陳列方法**を取り入れることを検討します。
- ・試飲、試食やレシピ紹介のためのポップ設置など、**商品の魅力を積極的に発信し**、訪れる人に地域の特産品を、より深く楽しんでもらえるための取り組みについて検討します。
- ・バックヤードは、**商品の管理、検品、補充作業等がスムーズに行える十分なスペース**を確保します。
- ・搬入や在庫管理の動線にも配慮し、**運営のしやすい施設づくり**を進めます。
- ・施設の一部に、**チャレンジショップの出店スペース**を設けることで、起業や妙高市内での就職支援のきっかけづくりを行うことを検討します。
- ・地元食材を余すことなく使い切るため、**規格品外の地元食材を使ったお惣菜の販売**などを行うことを検討します。



●飲食施設

人をつなぐ

地域をつなぐ

安全・安心をつなぐ

【整備方針】

- ・イートインとテイクアウトを組み合わせた店舗構成により、**利用者の多様な飲食スタイルに対応**できる環境の整備を検討します。
- ・妙高の豊かな自然を楽しめるよう、屋根付きの半屋外スペースに**オープンテラス席を設け、開放感のある飲食空間**の整備を検討します。
- ・常設店舗に加え、キッチンカーやテントなどによる出店が可能なスペースを整備し、**イベント開催にも対応できる環境**の整備を検討します。
- ・妙高産の米や農産物を中心に、新たな地場産品を取り入れた、**身体にやさしいオリジナルメニューの開発**を検討します。
- ・24時間利用可能な自動販売機コーナーを充実させ、**トラックドライバーなど夜間の利用者にも対応**できる快適な休憩環境の整備を検討します。



8.道の駅 導入機能イメージ(ハード)

●地域特産品 体験施設

【整備方針】

- ・道の駅を訪れた際に目を引く、地域の特色を象徴する**日本酒醸造のディスプレイ施設**を整備する等、来訪者の記憶に残る空間づくりについて検討します。
- ・商品の魅力を実感できるよう、**試飲コーナーやお試しブレンド体験**など、楽しみながら商品に触れられる体験スペースの設置を検討します。



●災害時初動対応スペース（平時：スポーツ施設）

【整備方針】

- ・地域に**新たなアクティビティの場**を提供するため、ボルダリング施設や3×3バスケットボールコートの整備を検討します。
- ・スポーツや遊びを通じて、子どもから大人まで多様な人々が自然と集まり、会話や笑顔が生まれる、**人と人がつながるきっかけとなる場**として、地域の絆づくりを推進します。
- ・アクティビティの場が人々の集いを生み出し、施設全体のにぎわいを高めるものとなるよう、**日常的な利用からイベント開催まで、多様なシーンで活用**できる空間の整備を検討します。



●多目的広場（屋内子ども遊び場：西側）

【整備方針】

- ・冬季や悪天候でも子どもたちが遊べるよう、屋内にインクルーシブ遊具を設置し、市内の**子育て環境の充実**に貢献するための整備を検討します。
- ・親が子どもに目を配りながら休憩できるよう、**休憩スペース等に隣接する位置**に遊戯施設の配置を検討します。



8.道の駅 導入機能イメージ(ハード)

●イベント広場

人をつなぐ

地域をつなぐ

安全・安心をつなぐ

【整備方針】

- ・新鮮な農産物の提供や加工品の実演販売など**多彩なイベントが開催できる空間**の整備を検討します。
- ・**キッチンカーやテント、コンテナなどの出店**がスムーズに行えるよう、電気・水道などのインフラ設備の整備を検討します。
- ・**日除け、雨除けとして機能する大型屋根**を設置し、天候に左右されず快適に利用できる環境の整備を検討します。
- ・**災害時、物資の保管、作業スペースとしても活用**できるよう、車両の進入が可能な環境の整備を検討します。



●健診施設（民間）

人をつなぐ

地域をつなぐ

安全・安心をつなぐ

【整備方針】

- ・健診施設の健診環境の充実を図るため、**既存の健診施設を「道の駅」の近くに誘致**することを検討します。
- ・健診施設が日常生活の活動範囲内にあることで、気軽に立ち寄れる環境となり、心理的・時間的負担が軽減されることで、**健診の受診率向上**を目指します。
- ・多様な健診メニューを観光や滞在型体験と結び付け、**健康づくりと地域の魅力を同時に体験できる新たなサービスの提供**を検討します。



●遊歩道（屋根あり）

人をつなぐ

地域をつなぐ

安全・安心をつなぐ

【整備方針】

- ・「道の駅」西側エリアの**南北方向の回遊性**や、上信越自動車道の**新井PAから「道の駅」へのアクセス性を向上**するため、屋根付きの遊歩道の整備を検討します。
- ・さまざまな天候でも施設間を行き来しやすいよう、**雁木をイメージした屋根**や、誰でも気軽に利用できる**休憩用のベンチ、テーブル**の整備を検討します。



8.道の駅 導入機能イメージ(ハード)

●ハウス栽培施設（民間）

人をつなぐ

地域をつなぐ

安全・安心をつなぐ

【整備方針】

- ・別途実施する、木質バイオマス発電からの**排熱を利用したハウス栽培施設**の誘致を検討します。
- ・年に数回収穫可能な、オーガニック野菜等を栽培することにより、農産物としての出荷のほか、手作り「餅」等を製造し、特產品として「道の駅」で販売するなど、**新たな地域産業**としての**展開**を検討します。
- ・福祉事業所に作業委託し、**農福連携の場**として障がいのある方の就労機会の創出について検討します。



●災害時初動対応スペース（平時：スポーツ・RV）

人をつなぐ

地域をつなぐ

安全・安心をつなぐ

【整備方針】

- ・災害時には、災害対策車両の活動エリアとして**緊急車両の乗り入れ可能な場所**として整備するとともに、**防災機能を強化する施設**の導入を検討します。

(平時)

- ・近年の多様な観光ニーズに対応するため、**RVパークやオートキャンプ場**としての機能の整備を検討します。
- ・サッカーやフットサル、ボッチャといった多様なスポーツ利用、イベント開催など、**柔軟な利用目的に 対応可能な広場**の整備を検討します。
- ・冬季の広場では、**雪上スポーツ体験**（そり遊び、スノーシュー）や、冬の風物詩である「唐辛子の雪さらし体験」ができる場所としての活用を検討します。
- ・冬季には一部を**堆雪場**としての利用を検討します。



●調整池（ドッグラン）

人をつなぐ

地域をつなぐ

安全・安心をつなぐ

【整備方針】

- ・雨水を一時的にためる調整池の空間を活かし、**環境にやさしく安全なドッグラン**の整備を検討します。
- ・ドライブの途中でも、**愛犬がのびのび過ごせる環境**の整備を検討します。
- ・調整池の周囲には、柵を設け、脱走を防ぐ二重扉も設置するなど、安全に利用できる環境の整備を検討します。



8.道の駅 導入機能イメージ(ハード)

●多目的会議室

人をつなぐ

地域をつなぐ

安全・安心をつなぐ

【整備方針】

- ・災害発生時には、対策本部や物資の集積スペース、傷病者など避難者向けのスペースとして活用できるよう、状況に応じて多様な役割に転換・運用できる空間の整備を検討します。
- ・机や椅子、プロジェクタなど、災害時にも円滑に防災活動が展開できるよう、必要な設備の整備を検討します。
- ・平常時、展示会やイベントの開催、道の駅管理者による業務利用、市民への貸館利用など、地域に開かれた多目的スペースとして使用できる環境の整備を検討します。



●耐震貯水槽、防災備蓄スペース

人をつなぐ

地域をつなぐ

安全・安心をつなぐ

【整備方針】

- ・「道の駅」に避難してきた人が、「道の駅」で一時的に避難生活するために必要な水、食料などを確保、備蓄するためのスペースの整備を施設内に検討します。
- ・防災訓練を通じて、災害時に設備を円滑に利用できる環境の整備を検討します。



●防災施設整備用地

【整備方針】

- ・災害時における防災機能の強化を図るため、広域支援の拠点としても活用できる防災施設用地の確保や、施設整備の協議を進めます。
- ・自治会や学校との合同防災訓練、避難所運営訓練などの開催場所として活用し、平時から地域とつながりを持つことで、災害発生時に円滑な連携体制の構築に努めます。



●バイオマス発電施設（民間）

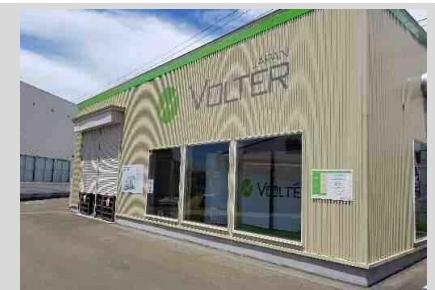
人をつなぐ

地域をつなぐ

安全・安心をつなぐ

【整備方針】

- ・災害時の電力確保を図るため、再生可能エネルギーの地産地消のモデルとして、妙高市の豊富な森林を活用した木質バイオマス発電施設の誘致を検討します。
- ・発電時に生じる排熱をロードヒーティングや、冷暖房に活用するための付加設備の整備を検討します。
- ・再生可能エネルギー施設を整備し、地域における脱炭素社会の実現に貢献する、環境負荷の少ない施設運営を行うことを検討します。



9.道の駅 導入機能イメージ(ソフト)

ここでは、まちぐるみで挑戦する、道の駅「あらい」の再整備のコンセプト実現のために行うソフト対策について、以下に示します。

ソフト対策の検討にあたっては、参考事例の調査をもとに、実施について検討を行います。

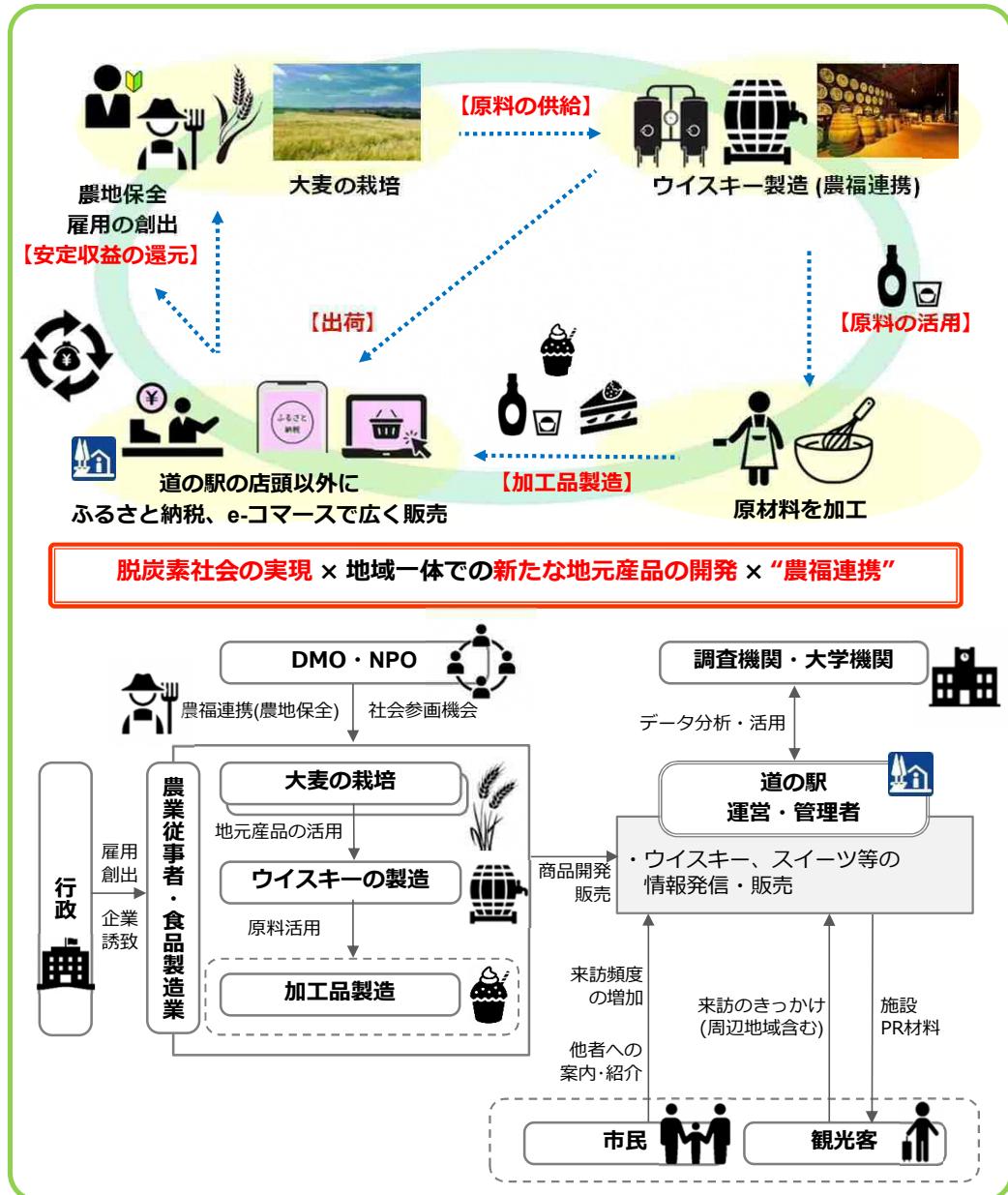
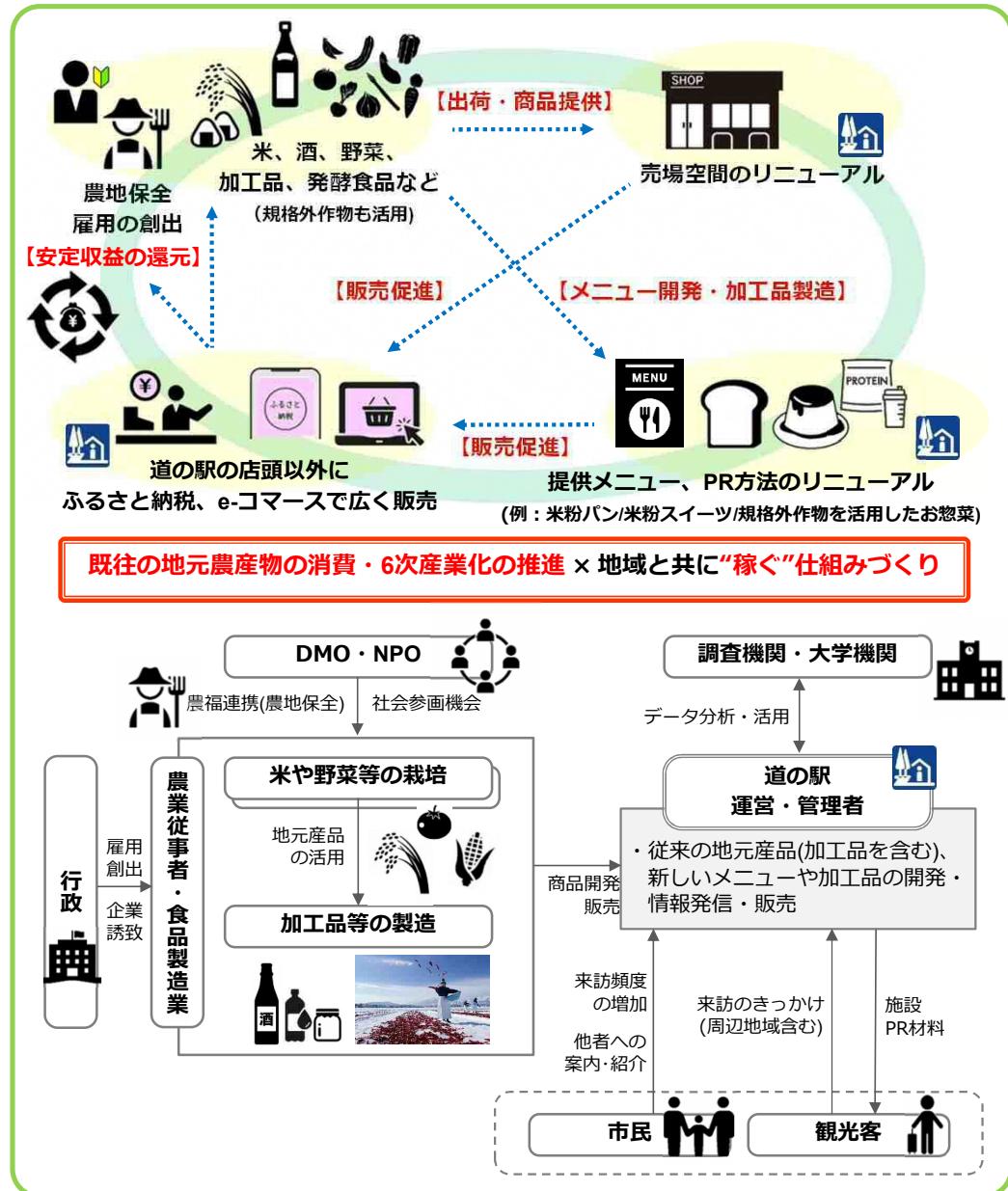
なお、取り組みの詳細は、関係者との調整に伴い、変更する場合があります。

※下記の内容は、参考事例です。

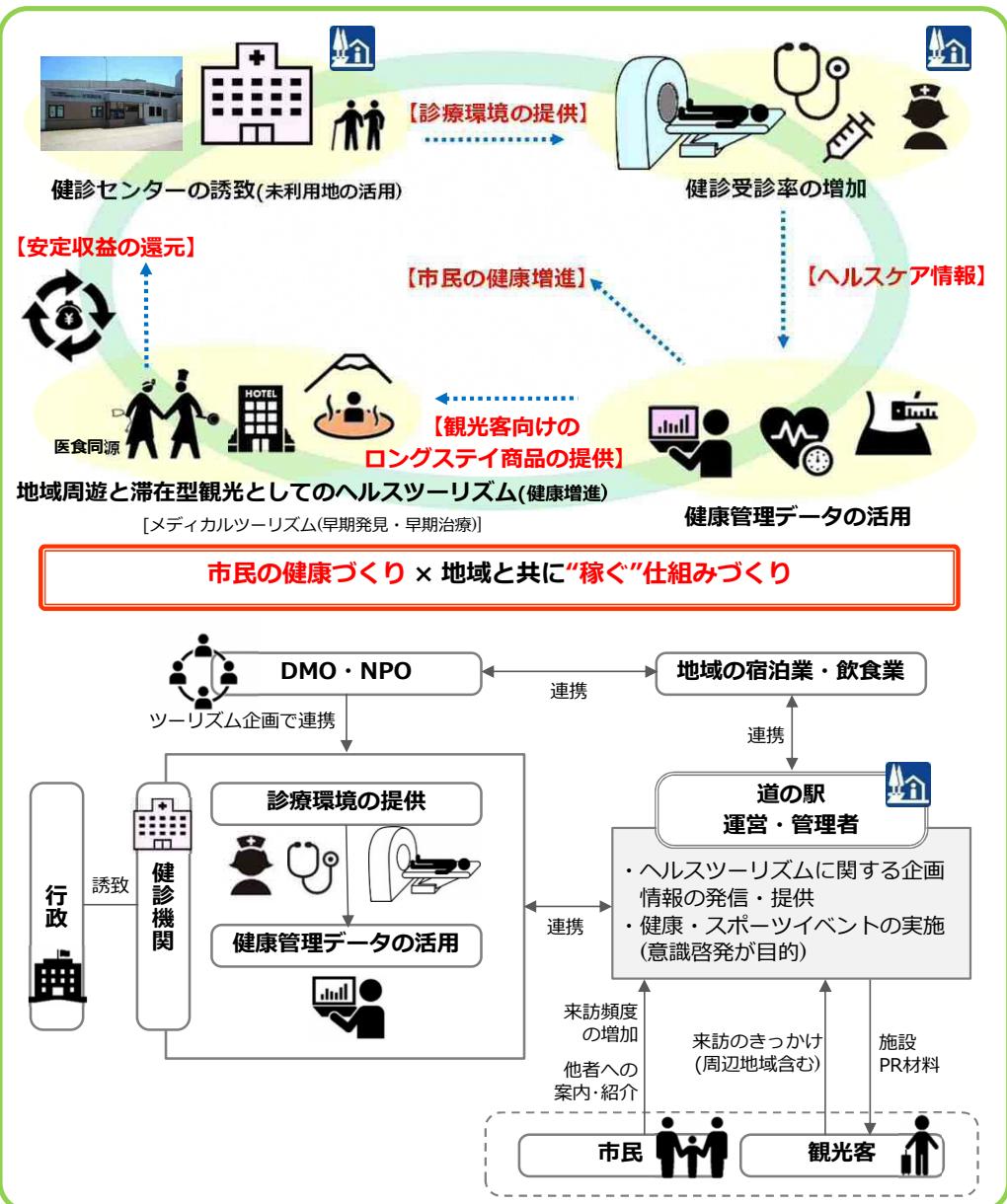
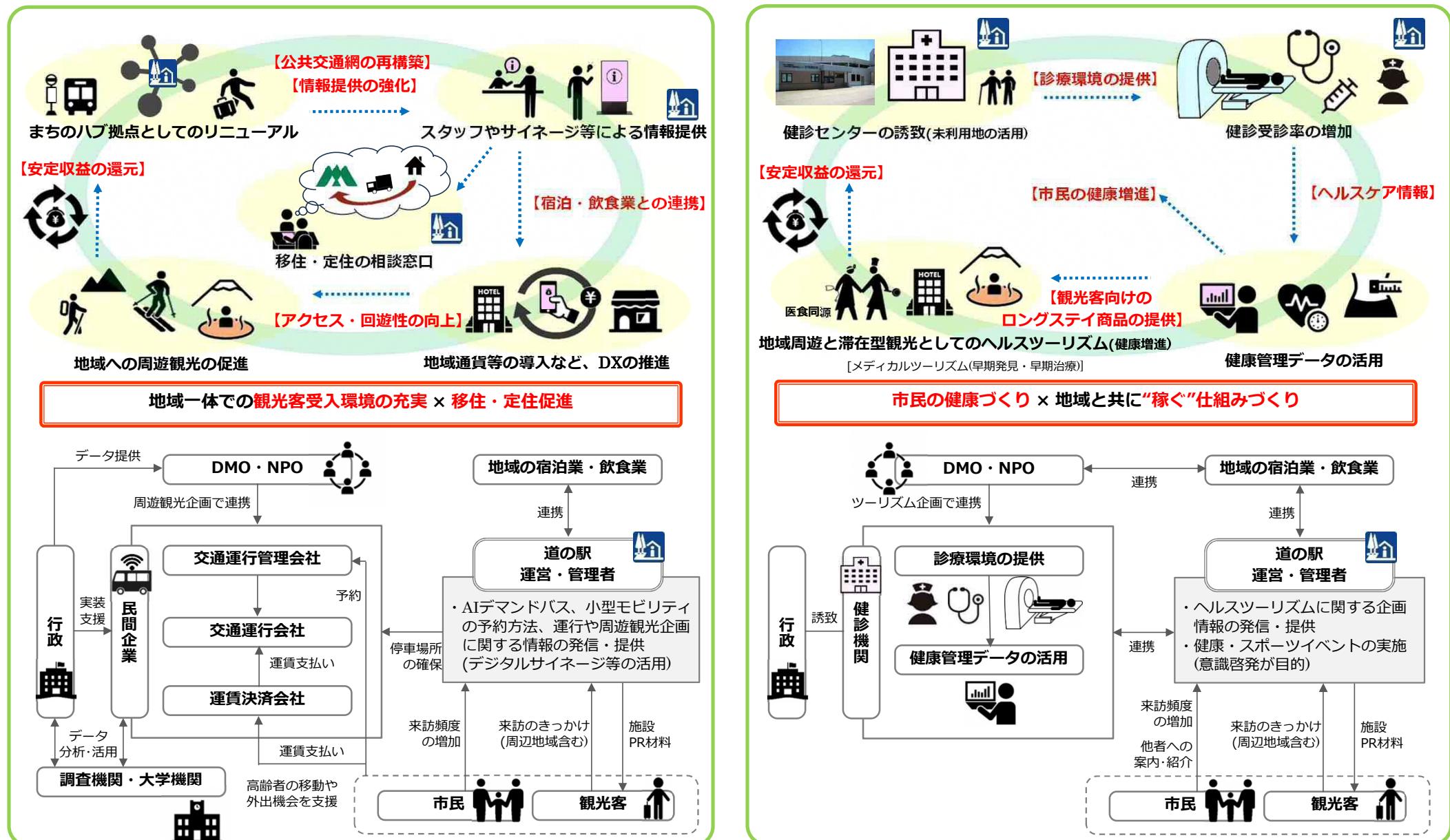
相談窓口		障害のある方々との連携 (農福連携)
移住・定住	観光のワンストップサービス	
<p>■道の駅「ましこ」(栃木県) 移住に関する相談窓口、相談員を配置。 どんな仕事をしたいか、どんな住まいを希望されるかなど、悩みや疑問点について地域情報を収集し、対応。</p> 	<p>■道の駅「かづの」(秋田県) 指定管理者が旅行業免許を取得。 旅のプロデュースを行ったり、観光案内や、ホテルの予約など、観光に関するワンストップサービスを提供。</p> 	<p>■道の駅「伊豆ゲートウェイ函南」(静岡県) NPO法人が中心となって、農福連携に取り組む福祉事業所または農業者にイベント出展者を募り、開催。</p>  
<p>地域内周遊への誘導</p> <p>■道の駅「ふくしま」(福島県) 「道の駅」がアプリを作成。 市内店舗に参加を呼びかけ、アプリで取得したデータは、当初の目的である周遊促進に加えマーケティング面でも活用。</p> 	<p>■道の駅「氷見」(富山県) 「道の駅」来訪者を、まちなか誘導するため、小型電気自動車を導入し、情報発信アプリを使い、車両予約や宿泊・飲食・土産物、周遊スポット、モデルコースを紹介。</p> 	<p>まちなか誘導・産業支援</p> <p>■道の駅「山陽道やかけ宿」(岡山県) 「道の駅」来訪者をまちなかへ誘導し、地域全体のにぎわいづくりにつなげるため、あえて物販施設等を設けず、特産品・工芸品等の紹介に特化した情報提供施設を設置。</p> 
		<p>道の駅への参画機会創出</p> <p>■鳥取県若桜町商工会(鳥取県) 「道の駅」・観光物産施設を対象に、販路商品サービスの販路開拓並びにビジネスマッチングによる事業機会の創出を目的とした交流商談会を開催。</p>  

10. 地域還元・循環イメージ

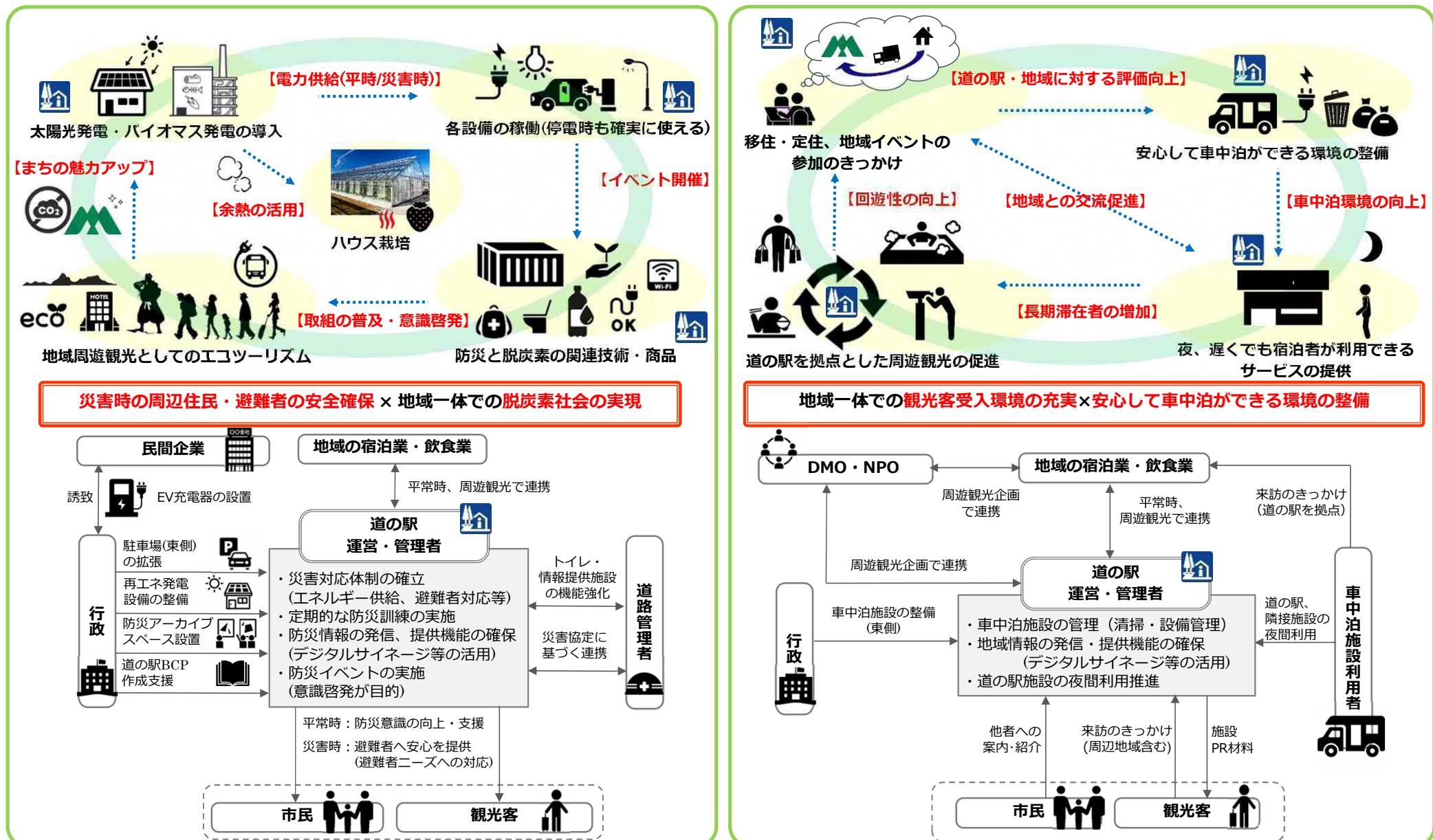
まちぐるみでの挑戦に基づく、道の駅改修により実現される、地域還元・循環(上段)及び、体制イメージ(下段)について、以下に示します。
なお、取り組みの詳細は、関係者との調整に伴い、変更する場合があります。



10. 地域還元・循環イメージ



10. 地域還元・循環イメージ



10. 地域還元・循環イメージ

各エリアの特性を活かし、「通過される観光地」から「滞在し、巡る観光地」への転換を図るため、道の駅「あらい」における情報提供機能の強化を通じて、周遊情報を一元的に発信するとともに、道の駅「あらい」を地域内外を結ぶハブとして位置付け、テーマ性のある周遊ルートの形成と拠点機能の強化を進めます。

矢代エリア

○暮らしを体験する里山周遊

里山景観や農業・暮らし文化といった地域資源をPRし、地域内回遊を促進。

【PRすべき観光資源】

里山景観、矢代米、古民家

【整備すべき周遊手段】

電動自転車等によるスローな移動の促進



妙高高原エリア

○温泉・自然アクティビティによる地域内周遊

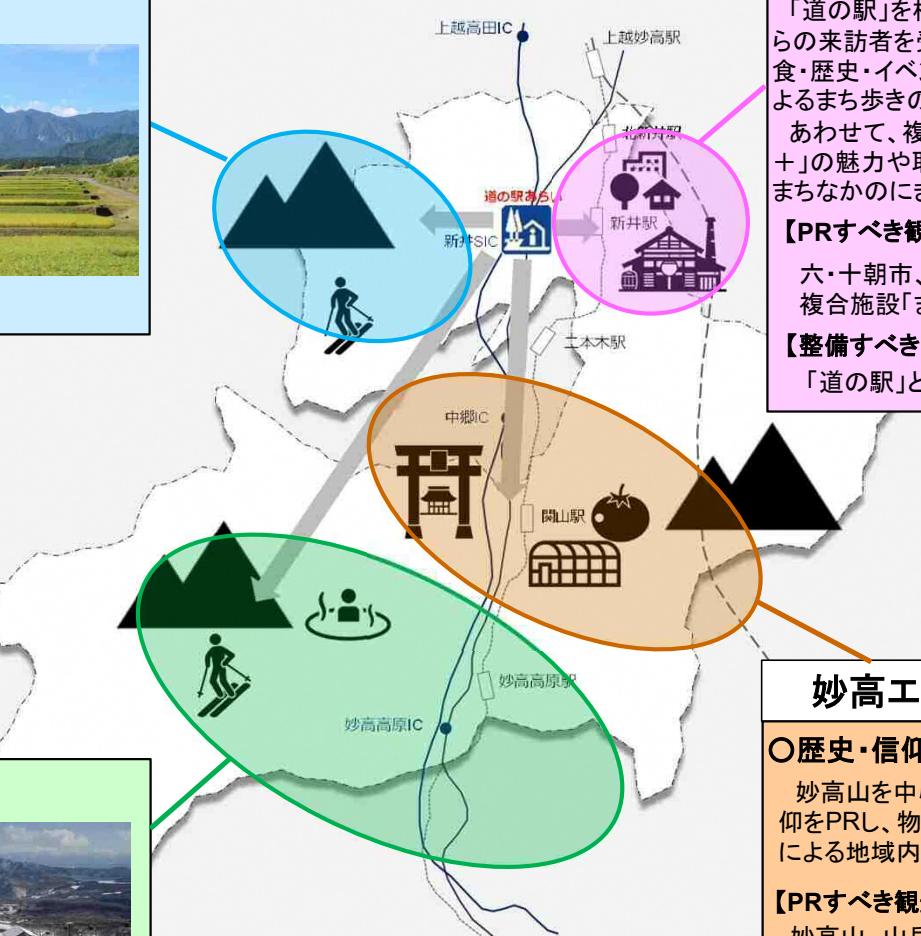
温泉地と高原自然、アウトドア資源をPRし、滞在型・連泊型の地域内周遊を促進。

【PRすべき観光資源】

妙高高原温泉郷 火打山登山、スキーリゾート、宿泊施設

【整備すべき周遊手段】

シャトル等によるエリア内回遊の強化



新井エリア

○道の駅を起点とした市街地・広域周遊

「道の駅」を核とした、市内外からの来訪者を受け止めるため、食・歴史・イベントの魅力発信によるまち歩きの促進。

あわせて、複合施設「まちなか十」の魅力や取組の紹介による、まちなかのにぎわいづくりを促進。

【PRすべき観光資源】

六・十朝市、妙高市民まつり、酒蔵ツーリズム、複合施設「まちなか十」

【整備すべき周遊手段】

「道の駅」と市街地を結ぶ、公共交通機能の強化



妙高エリア

○歴史・信仰を体験する地域内周遊

妙高山を中心とした歴史、信仰をPRし、物語性のあるルートによる地域内周遊を促進。

【PRすべき観光資源】

妙高山、山岳信仰、関山神社火祭り

【整備すべき周遊手段】

少人数・ガイド型回遊の展開



11. 施設規模

「道の駅あらい」の改修後の施設規模を、以下に示します。

なお、施設規模・面積構成の詳細は、道の駅関係者からの意見や、設計の段階で変更する場合があります。

	施設名称	施設規模 (m ²)	
		改修前	改修後
西側 (道の駅)	休憩スペース	(※)	60
	トイレ・子育て応援施設	60	130
	情報提供・相談コーナー	163 (※)	40
	地域特産品 販売施設	73	670
	飲食施設（休憩スペースとしても利用可能）	135	670
	地域特産品 体験施設	—	170
	災害時初動対応スペース（平時：スポーツ施設）	—	280
	多目的広場（屋内子ども遊び場）	—	220
	多目的会議室	151	170
	イベント広場	—	400
小計		582	2,810
(その他) 西側	健診施設（民間整備）	—	1,410
	遊歩道（屋根あり）	既存改修 (L=300m)	
	小計	—	1,410
(その他) 東側	ハウス栽培施設（民間整備）	—	400
	災害時初動対応スペース（平時：スポーツ・RV）	—	6,000
	調整池（ドッグラン）	—	2,200
	防災施設整備用地	—	8,400
	バイオマス発電施設（民間整備）	—	3,300
	小計	—	20,300
総計		582	24,520

※改修前は、休憩スペースと情報提供施設が一体

12. 施設配置

道の駅「あらい」の改修における施設配置に関する考え方及び、施設配置プラン(案)を、以下に示します。
なお、施設配置の詳細は、「道の駅」関係者からの意見や、設計の段階で変更する場合があります。

＜施設配置に関する考え方＞

【道の駅】

道の駅は、新井PAとの連携を図るため、既存位置に配置します。

【健診施設】

健診施設は、災害時の利用を想定し、駐車場が広く確保できる「旧トランクステーション」敷地内に配置し、誘致を進めます。

【防災施設整備用地、災害時初動対応スペース】

防災施設整備用地、災害時初動対応スペースは、災害時の利用を想定し、道の駅(東側)に配置します。

【調整池(ドックラン)】

新たに整備する調整池は、既存調整池の活用も踏まえ、その近くに配置します。

【バイオマス発電施設】

バイオマス発電施設は、資材搬入や、災害時の道の駅への電力供給を想定し、道の駅(東側)に配置し、誘致を進めます。



図 道の駅リニューアルによる施設整備内容(第1フェーズ実施分) 35

13. 概算事業費

道の駅「あらい」のリニューアルに伴い、必要となる概算事業費を、以下に示します。
なお、各工事費については、設計の段階で変更する場合があります。

※下記は、参考数値です。

	施設名称	概算事業費	
		事業費（万円）	備考
設計	建築・土木 設計費	17,200	
測量	用地確定測量	2,200	
	用地購入費	5,100	対象面積：2.2ha
	合計①	24,500	
工事	道の駅	100,000	防災備蓄スペース 含む
	遊歩道	33,000	遊歩道・屋根設置
	耐震貯水槽	5,000	耐震貯水槽：40 t 規模
	防災施設整備用地	17,000	
	災害時初動対応スペース (平時：スポーツ・RV)	17,800	敷地整備のみ
	調整池（ドッグラン）	5,500	容量：1,850m ³
	インフラ整備（道路、雨水排水）	11,000	
	小計（税別）	189,300	
	合計②（税込）	210,000	税率 10%
総計（合計①+合計②）		234,500	

※上記、金額は、妙高市が整備する費用のみ（用地買収費 含まず）。

令和10年度を、建設実施年とした場合、昨今の物価上昇の傾向を鑑みると、上記数値の約10%、全体費用が上昇する可能性がある。

$$\therefore \text{総事業費(概算)} = 2.5\text{億円} + 21\text{億円(税込)} \times 1.1 = \text{約}25.6\text{億円(税込)}$$

14. 管理運営体制

<管理運営の考え方>

1. 官民連携による魅力的な道の駅づくり

近年、「道の駅」の新設やリニューアルでは、行政と民間が協力して整備や運営を行う「官民連携(PPP)方式」が広がっています。
民間の知恵や活力を取り入れることで、より魅力的で持続可能な「道の駅」づくりを進めていきます。

2. まちぐるみで進める道の駅運営

道の駅の運営は、行政・地域・民間が協働で行っています。
地域と深く関わりながら、「**まちぐるみ**」での運営体制に努め、
地域に根差した、長く愛される「道の駅」をめざします。

3. 持続可能な運営体制の構築

リニューアル後も、行政と民間が共同で運営する「第3セクター」による**指定管理者制度を継続**していきます。

運営体制の強化に向けて、**人材の確保や専門家からの評価、助言を受けるといった取り組みを継続的に実施**していきます。

4. 関係機関との連携強化

既存の指定管理による運営体制を継続しつつ、道の駅の周辺地域を広く巻き込んだ形でエリアマネジメントを推進する体制を構築し、**両輪で全体の魅力向上**に取り組みます。

関係者で共同して**情報発信やイベントを行うなど、協力体制を強化**し、地域全体のにぎわいづくりを進めていきます。

エリアマネジメントの協議体には、リニューアルに伴って新たな機能が加わるため、今後、**具体的な体制づくりのための関係者調整**が必要となります。

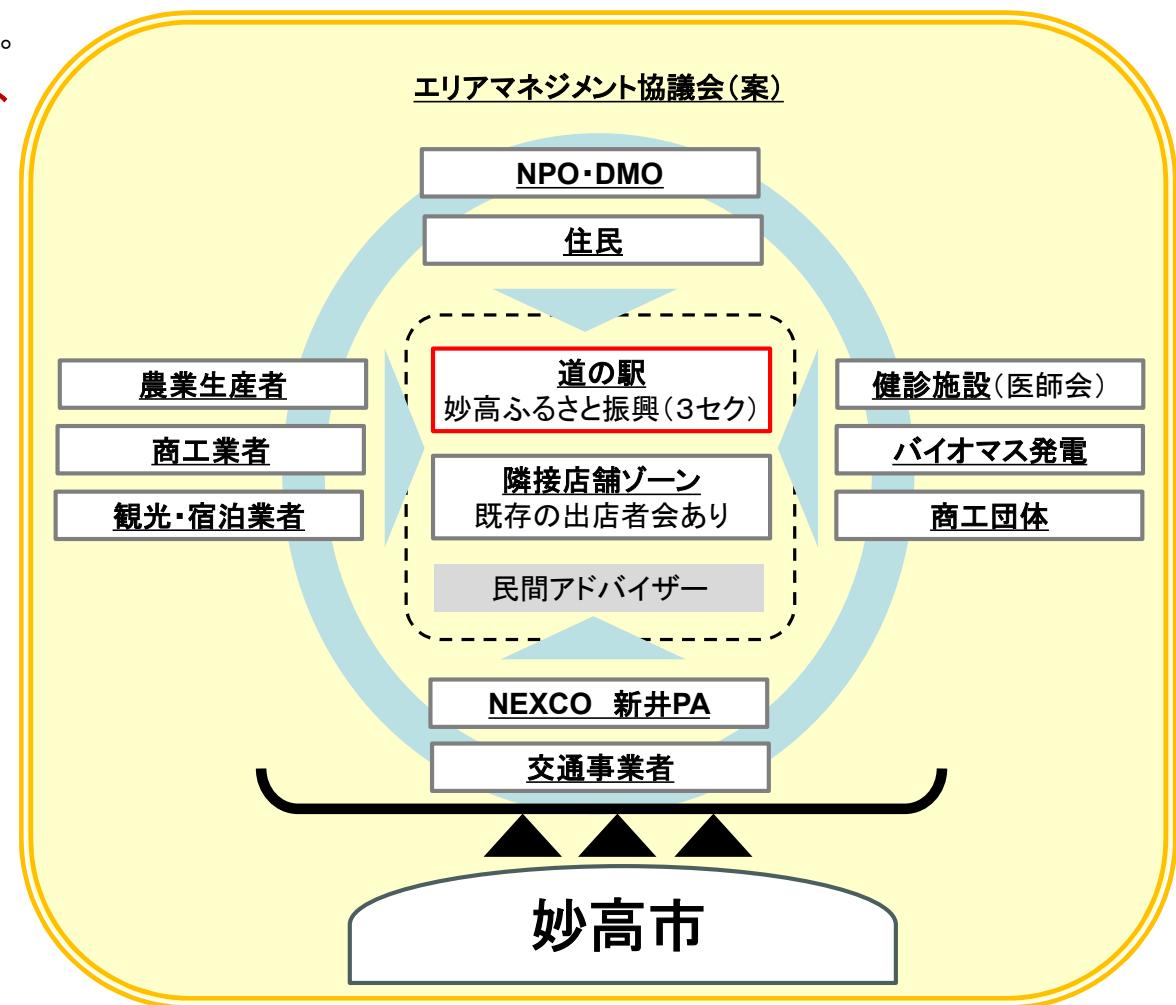


図 「道の駅」管理運営体制(案):リニューアル後

15. “まちぐるみでの挑戦”を推進するための取り組み

「道の駅」の改修を契機に、「まちづくり」を戦略的に進めていくために行う取り組みについて、以下に示します。
なお、取り組みの詳細は、関係者との調整に伴い、変更する場合があります。

対象	目的	方法・手法
地域全体の機運醸成	住民・事業者の共感醸成	<p>市民ワークショップ、パネル展示、広報(SNS発信、広報掲載など)による、取り組み状況の「見える化」を検討します。</p> <p>プレイベント(試食会、製造体験等)を実施し、利用者ニーズの把握に努めます。</p> <p>「(仮称)道の駅活用推進協議会」を設置し、道の駅関係者からの意見収集に努めます。</p> 
民間事業者への働きかけ	相互理解の促進	<p>意見交換会開催の頻度を増やすことや、アンケート調査による課題、要望の把握等、関係者からの意見収集方法及び、その実施を検討します。</p> 
	連携事業の検討・実施	<p>「道の駅」への出店・参画を希望する方が気軽に相談できるよう、受け入れ体制と専用窓口を整備など、新たな事業者が参加しやすい環境づくりを図ります。</p> <p>共同キャンペーン(販促イベント、加工品販売、観光情報発信等)の企画を検討し、その実施に努めます。</p> 
新規進出・外部事業者への働きかけ	参画意欲の喚起	<p>企業向け説明会や、商談会の開催等、新規進出、外部事業者の参加機会の創出方法について検討し、その実施を検討します。</p> 
	パートナーシップ形成	<p>民間企業者との「地域活性化包括連携協定」を締結し、官民連携における信頼を担保する法的制度的裏付けの確立方法及び、その実施について検討します。</p>

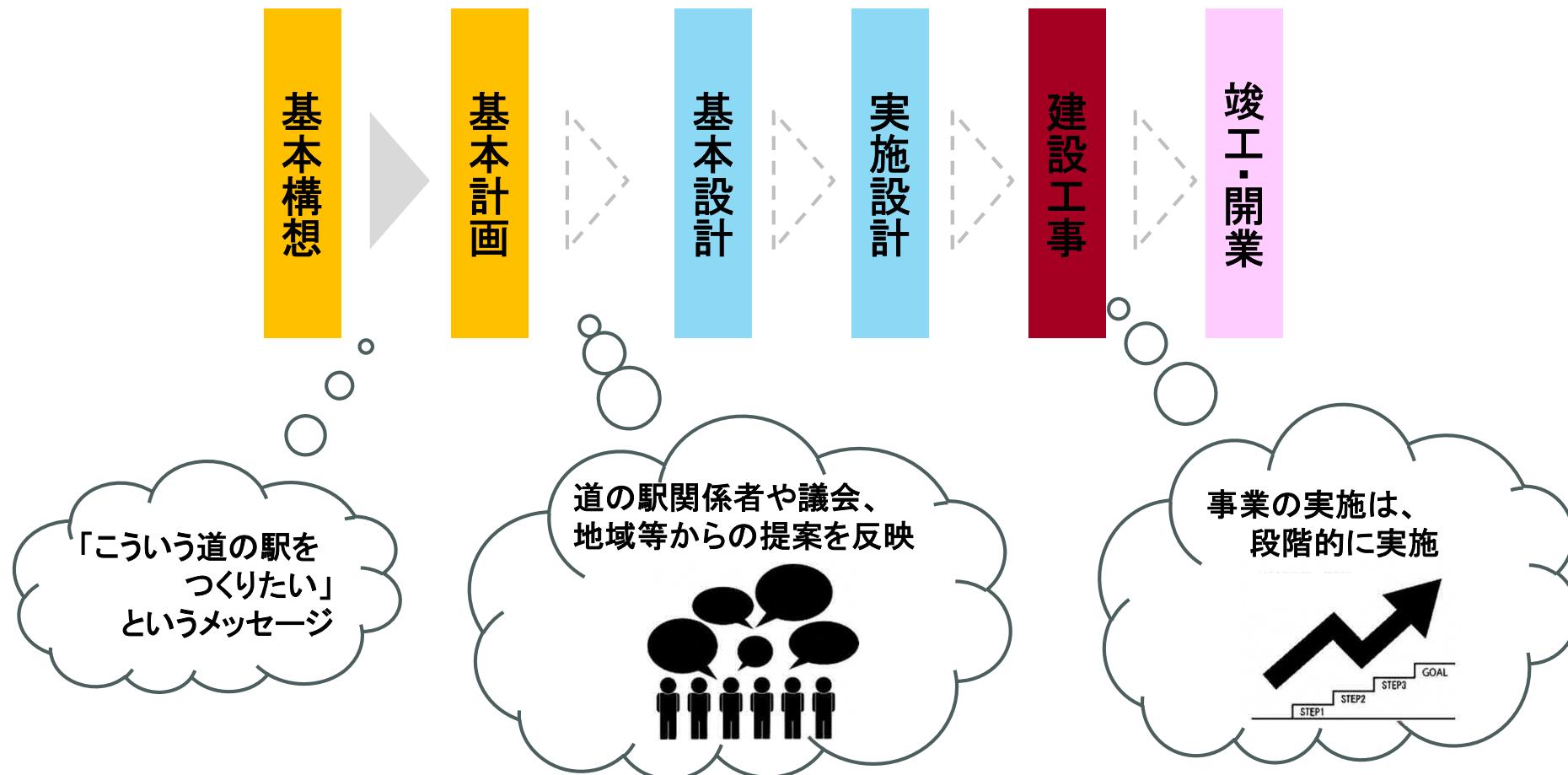
16. 整備事業の進め方

本基本計画は、**市が目指す「こういう道の駅をつくりたい」「こういう地域との関わり方を形にしていきたい」といった方向性**を明確に示し、その考え方を「道の駅」に関わるすべての関係者と共有することを目的としています。

計画の策定にあたっては、関係者一人ひとりの自由な発想や創意工夫が十分に發揮されるよう、提案内容に柔軟性を持たせることにも配慮しています。また、既存事業者の皆さんとの対話や連携、コミュニケーションを丁寧に行いながら進めていきます。

こうした考え方から、「道の駅」の再整備事業は、**「道の駅」関係者や議会、地域等からの提案を、設計段階から反映できる体制**で事業を進めています。

そして、事業の実施は、施設の規模や機能に応じて状況の変化や地域のニーズに柔軟に対応できるよう、段階的に進めています。これにより、地域の特性を最大限に活かし、官民が協働して魅力ある道の駅づくりを着実に推進していきます。



17. 事業スケジュール

「道の駅あらい」のリニューアルにあたっての事業スケジュールを、以下に示します。

本事業は、施設の規模や機能に応じて状況の変化や地域のニーズに柔軟に対応できるよう、段階的に実施していきます。

なお、本事業スケジュールは、社会情勢の変化などにより変更する場合があります。

		運用開始時期		
		第1フェーズ	第2フェーズ	第3フェーズ
		R10年度まで	R11～15年度	R16～R20年度
ハード整備	西側	道の駅	→	
		遊歩道(雁木づくり)	→	
		健診施設	→	
		新井PAとの連携	→	→
ハード整備	東側	調整池(ドックラン)	→	
		防災施設整備用地	→	
		災害時初動対応スペース (平時:スポーツ・宿泊・RV)	→	
		ハウス栽培施設・バイオマス発電施設	→	
ソフト整備	ソフ	道の駅や地域活動への参画ニーズへの対応・相談窓口の設置	→	継続実施
		障がいのある方々との連携(農福連携(イベント開催など))	→	継続実施
		販路の確保・拡大のための取り組み(e-コマース、ふるさと納税、定期イベントの開催など)	→	継続実施
		商品開発(お惣菜、食事メニューなど)及び、販売促進イベントの開催	→	継続実施
		地域内周遊にも活用できる交通手段の確保(デマンドタクシー活用など)	→	自動運転の導入
		ヘルツツーリズム	→	継続実施
		隣接民間施設との連携	→	継続実施